

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和7年5月13日

会派名 新生会  
代表者 伊藤 泰彦 様

出張者 古賀 博文  
大河内 正弘  
高倉 寛和  
野田 宗作

次のとおり、政務活動（研修）のため出張したので、その概要を報告します。

- 出張先 全国地町村国際文化研修所（滋賀県大津市）
- 出張日時 令和7年5月7日～ 令和7年5月9日
- 政務活動事項 市町村議会議員研修（3日間コース）  
「新人議員のための地方自治の基本」
- 政務活動結果 別紙のとおり
- 費用 141,690円

## 政務活動報告書

新生会 古賀博文

### 第1回「新人議員のための地方自治の基本（3日間コース）」

#### 日程

令和7年5月7日（水）

唐津駅→JR 筑肥線・福岡市営地下鉄→博多駅→新幹線→京都駅→JR 湖西線→唐崎駅

11:30 全国市町村国際文化研修所 到着

12:30 開講・入寮オリエンテーション

13:00 講義 地方自治制度の基本

同志社大学政策学部 教授 野田遊 氏

15:50 講義 地方議会制度について

全国市議会議長会 企画議事部 副部長 篠田光洋 氏

18:00 懇親会

令和7年5月8日（木）

09:00 講義 地方議会と自治体財政

武庫川女子大学 経営学部 教授 金崎健太郎 氏

13:30 講義 条例と政策の審査・立案

元衆議院法制局参事 吉田利宏 氏

15:15 演習 条例演習 意見交換・発表・まとめ

元衆議院法制局参事 吉田利宏 氏

令和7年5月9日（金）

09:25 講義 これからの地方議員に期待されていること

慶應義塾大学法学部 教授 谷口尚子 氏

唐崎駅→JR 湖西線→京都駅→新幹線→博多駅→福岡市営地下鉄・JR 筑肥線→唐津駅

## 講義 地方自治制度の基本

同志社大学政策学部 教授 野田遊 氏

地方分権、財政、行財政改革、市町村合併、広域連携、行政編成、自治体議会、自治体組織、ガバナンス、政策、広報について約2時間半にわたる講義を受けた。各項目で議員として当然知っておくべき内容を語って頂いた。地方行政、地方議会の入門的な内容で、今回の研修の最初の講義として最適な内容だった。

## 講義 地方議会制度について

全国市議会議長会 企画議事部 副部長 篠田光洋 氏

地方議会・議員に求められているもの、地方議会の権限、地方議員の権限、地方議員の義務、議員の発言と法的責任等、議員の兼職・兼業の廃止、本会議の運営、委員会の運営について1時間半の講義を受けた。実際、議員として身近な事が多く、疑問に思っていた多くの部分が解消できた。特に本会議、委員会の運営については、先輩議員に聞いたり頼っていた事が多かったが講義を通して整理できた。

## 懇親会

研修所の方々が準備して下さり、1時間半にわたり他の研修会参加者と交流する場を与えて頂いた。今回の研修会には市町村の議員が参加していて、様々な規模の地方自治体の議員から各自自治体の課題、問題を直接聞くことができた。同じ議員なので短時間で打ち解け、率直な考えを聞かせてもらった。懇親会終了後も研修会の外で語り切れなかった話もでき、収穫の多い懇親会だった。

## 講義 地方議会と自治体財政

武庫川女子大学 経営学部 教授 金崎健太郎 氏

国と地方の税財源配分と地方歳入の状況、地方財政計画の策定を通じた地方財源の確保、地方交付税、特別交付税制度の概要、臨時財政対策債などの講義の後、自治体予算の基本について詳細な話があり、最後に予算案のチェックポイントの講義をして頂いた。自治体の予算、会計、決算については民間企業と対比しながら説明されたので、よく理解できた。また予算の編成から成立、執行までの流れ、その過程で行われる議会審議など、理解し易い資料と説明を提供して頂いた。

## 講義 条例と政策の審査・立案

元衆議院法制局参事 吉田利宏 氏

議会からの政策立案が何故必要か、政策立案の為のスキル、条例の典型的な規定についての講義を受けた。私個人は議員として日が浅いので、全く考えていなかった内容で講義の前半は理解に苦しんだ。講義が進む中で様々な条例を紹介され、条例の背景、条例が目指す所など語って頂いて多少条例について考えることが出来るようになった。何か解決したい内容や明確な課題をもって講義に臨めば、もっと多くの収穫があったのではないかと感じた。

## 演習 条例演習 意見交換・発表・まとめ

元衆議院法制局参事 吉田利宏 氏

研修会参加者が7～8人の班に分かれ、課題に対して各班で意見を出し合って正解に近づく演習を受けた。同じ課題を与えられても違う内容、違う視点から語られる参加者がいて、学ぶ事が多かった。改めて自分自身の考え方の狭さ、知らずに身についた固定観念など、自分を振り返る時間にもなった。また、多くの議員の方と意見交換でき、いい刺激を受けた。

## 講義 これからの地方議員に期待されていること

慶應義塾大学法学部 教授 谷口尚子 氏

日本の民主主義、選挙の投票率、主権者教育、地方議員のなり手を増やすには、地方議会の改革、地方議会のデジタル化について講義を受けた。最初の日本の民主主義についての講義は興味深く、考えさせられる内容だった。民主主義を支える選挙についても被選挙人になって初めて感じた部分もあり、多くのことを学ぶ時間となった。私自身にとって非常に身近な内容だったので、もう少し深い内容を機会があれば是非参加したい。

令和7年5月13日

政務活動（研修）報告書

報告者 大河内正弘

- ・研修日：令和7年5月7日～9日（2泊3日）
- ・研修先：全国地町村国際文化研修所（滋賀県大津市唐崎二丁目13-1）
- ・研修名：市町村議会議員研修（3日間コース）「新人議員のための地方自治の基本」

① 地方自治制度の基本

講師：同志社大学政策学部 大学院総合政策化学研究科 教授 野田遊氏

② 地方議会制度について

講師：全国市議会議長会 企画議事部 副部長 篠田光洋氏

③ 地方議会と自治体財政

講師：武庫川女子大学経営学部 教授 金崎健太郎氏

④ 条例と政策の審査、立案 条例立案に関するグループ演習

講師：元衆議院法制局参事 吉田利宏氏

⑤ これからの地方議員に期待されていること

講師：慶應義塾大学法学部政治学科 教授 谷口尚子氏 目的

- ・研修目的 地方議員が理解しておくべき地方自治に関する諸制度や基本事項を講義や演習を通じて学ぶため。
- ・総評 地方制度の基本にあらかじめ提出しておいた事前課題の「議員提案条例の状況」を集計した資料を参考に演習での交流から、その地域性に特化した特色ある条例の存在を認識することができました。また政策の過程について、問題状況を取り違えずに課題設

定→政策案設定→決定→実施→評価に取り組み、重要なことはどうやって評価されているか。そしてその評価を確実にフィードバックしていくことが改善につながるものと感じました。条例立案に関するグループ演習では他地域の議員と6名ごとのグループに分かれ条例に関する課題に取り組みました。個々の解釈の違いが随所に現れ、様々な意見に耳を傾けることにより自分の知見を広めることができましたと思います。

#### 今後の活用

議員として基本的な制度、知識を身につけ効率的な議会運営を進め、住民の認識は低く期待水準は高いという現状を認識し、議会に対する市民の認識向上に努めていきたいと思えます。

令和7年5月13日

## 令和7年度 政務活動（研修）報告書

報告者：高倉 寛和

研修日：令和7年5月7日（火）～5月9日（木）（2泊3日）

研修先：全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市唐崎二丁目13-1）

研修名：市町村議会議員研修（3日間コース）「新人議員のための地方自治の基本」

### 1. 研修概要

このたび、全国市町村国際文化研修所にて実施された「新人議員のための地方自治の基本」研修に参加いたしました。初当選後、議員としての職責を果たすうえで必要な制度理解や政策立案の考え方など、多くを学ばせていただきました。人生経験を活かしつつ、新たに政治の世界に足を踏み入れた者として、謙虚に学ぶ姿勢を大切にしながら臨みました。

### 2. 研修内容

#### (1) 地方自治制度の基本

講師：野田 遊 氏（同志社大学政策学部 教授）

- デジタル技術の活用事例として、AIを用いた保育所入所手続きが紹介されました。事務の効率化や職員の負担軽減といった効果に触れ、私たちの自治体でも積極的な検討が必要であると感じました。
- 市町村合併の影響については、財政面では効率化が期待される一方、役場の廃止が地域の人口減少を加速させる可能性があるとのこと指摘に、地方の現実を改めて考えさせられました。
- また、広域連携については、制度導入後の成果が分野によって異なり、人口増加には結びついていないという報告もありました。数字に惑わされず、住民の実感を大切にすべきだと感じます。
- 政策を進めるうえで、問題の本質を見誤らないよう丁寧に調査することが、何より重要であるとの教えが印象に残りました。

## (2) 地方議会制度について

講師：篠田 光洋 氏（全国市議会議長会 企画議事部 副部長）

- 自由民主主義国の中でも、日本は政治参加の水準が非常に低いとのご指摘に、今後ますます議会の役割が重要になることを実感しました。
- 本会議や委員会の運営に関する基本的なルール、議員の権利と義務についても丁寧にご説明いただき、私自身の議員としての立ち位置を確認する良い機会となりました。

## (3) 地方議会と自治体財政

講師：金崎 健太郎 氏（武庫川女子大学経営学部 教授）

- 地方交付税だけでは予算が足りず、臨時財政対策債によって補填せざるを得ない構造に、大きな課題があると学びました。
- また、予算の編成において、算定された財政需要に縛られすぎない柔軟な運用が可能であることを理解し、現場での判断力が問われる分野だと感じました。
- ふるさと納税は税金ではなく寄附であるという基本を忘れず、恒常的な支出への充当は避けるべきとの点に共感しました。

## (4) 条例と政策の審査・立案／グループ演習

講師：吉田 利宏 氏（元衆議院法制局参事）

- 議員提案条例の種類やその背景にある課題を整理して学ぶことができました。グループでの演習では、他の議員の視点からも学ぶことが多く、有意義な時間となりました。
- 要望にただ応えるのではなく、その背後にある「真の課題」を見極める目を持つことの重要性を痛感しました。

## (5) これからの地方議員に期待されていること

講師：谷口 尚子 氏（慶應義塾大学法学部 教授）

- 無投票当選が増え、議員の担い手が減っている現状について、深刻な課題意識を持ちました。これからは、私たちのような年配者も含め、さまざまな世代が地域を支

えていく責任を持たねばなりません。

- また、アバターを活用したオンライン対話の研究など、デジタル時代ならではの住民との新しい関係の在り方についての講義は非常に新鮮でした。

### 3. 所感・今後の議会活動への活用

今回の研修は、地方議会の果たすべき役割を多面的に理解する貴重な機会となりました。私は議員としての経験はまだ浅いものの、長年地域に関わってきた立場から、住民の皆様の思いに寄り添い、しっかりとした知識と責任ある行動で応えてまいりたいと思います。今後は今回の学びを活かし、唐津市の現状に即した課題解決に取り組み、より良いまちづくりに尽力してまいります。

以上

令和7年5月13日

## 令和7年度 政務活動（研修）報告書

報告者：野田 宗作

研修日：令和7年5月7日（火）～5月9日（木）〈2泊3日〉

研修先：全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市唐崎二丁目 13-1）

研修名：市町村議会議員研修（3日間コース）

テーマ：「新人議員のための地方自治の基本」

### 1. 研修概要

本研修は、地方議会の役割と制度、自治体財政、条例立案の実務など、議員活動に必要な基礎知識を体系的に学ぶことを目的として実施されたものであり、全国から選出された新人議員とともに受講した。

### 2. 研修内容

#### （1）地方自治制度の基本

講師：野田 遊 氏（同志社大学政策学部 教授）

保育所入所手続きにAIを活用している自治体の事例を紹介され、業務の効率化・職員負担の軽減に寄与しているとの説明があった。唐津市でもデジタル技術の活用を検討したい。

市町村合併により財政効率は向上するが、地域の構造変化により人口減少が加速する側面も指摘された。

広域連携施策（定住自立圏・連携中枢都市圏）では、財政効率には一定の効果が見られるが、人口増には寄与しておらず、政策の目的と効果を正確に捉える必要性を再認識した。

政策立案において「問題の正確な把握」が最も重要であり、誤認した場合には全体の方向性が誤るとの指摘が印象に残った。

## (2) 地方議会制度について

講師：篠田 光洋氏（全国市議会議長会 企画議事部 副部長）

日本の政治参加率が先進諸国の中で極めて低い現状を踏まえ、住民意識を高める努力と議会改革の必要性を痛感した。

地方議会の権限、議会運営の原則について基礎から再確認する機会となり、市議会議員としての基本姿勢を見直す契機となった。

## (3) 地方議会と自治体財政

講師：金崎 健太郎氏（武庫川女子大学経営学部 教授）

地方財政計画では交付税法定率分では財源が不足し、臨時財政対策債等での補填を余儀なくされている現状を学んだ。

地方交付税の仕組みを踏まえ、自治体における予算編成は一定の裁量が認められている点が重要だと感じた。

ふるさと納税は寄付金であるため、継続的支出に充てるには不適合であり、財政運営上のリスク管理が求められる。

## (4) 条例と政策の審査・立案／グループ演習

講師：吉田 利宏氏（元衆議院法制局参事）

議員提案条例の分類や具体例、立案に至るプロセスについて実践的に学ぶとともに、住民要望と実際の課題の切り分けが重要であると理解した。

グループワークを通じ、実践的な条例設計の視点を養うことができ、今後の議員提案条例の基盤となる知見を得た。

## (5) これからの地方議員に期待されていること

講師：谷口 尚子氏（慶應義塾大学法学部 教授）

無投票当選の増加や議員担い手不足の深刻さが共有され、特に女性や若者の参画促進に向けた環境整備の必要性を実感。

オンラインを活用した住民参加型政策形成の可能性が紹介され、アバター等を用いた匿名性の高い議論が多様な意見を引き出すことができるとの研究成果が興味深かった。

## 3. 所感・今後の議会活動への活用

今回の研修では、地方自治体における制度的・財政的課題、住民との関係性、そして議会の役割について、実務的かつ理論的な視点から深く学ぶことができた。特に、政策立案における「問題の正確な把握」と「住民の声の本質的理解」の重要性が強調されており、今後の議会活動においても基本姿勢として取り組みたい。

また、デジタル技術の活用や多様な住民の意見収集に関する先進的な事例から、唐津市

における住民参画型の政策形成の可能性を見出す契機となった。今回得られた知見を活かし、地域に根差した実効性ある政策提案に努めてまいりたい。



以上

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和7年7月25日

会派名 新生会  
代表者 伊藤 泰彦 様

出張者 古賀 博文  
大河内 正弘  
高倉 寛和  
野田 宗作

次のとおり、政務活動（視察研修）のため出張したので、その概要を報告します。

- 出張先 熊本県苓北町
- 出張日時 令和7年7月19日～ 令和7年7月20日
- 政務活動事項 7月19日（土）  
・苓北町イベント  
7月20日（日）  
・苓北町じゃつと祭
- 政務活動結果 別紙のとおり
- 費用

政務活動報告書

新生会 古賀博文

第37回 天草茶北じゃっと祭（7月19日～20日）

視察日程

令和7年7月19日（土）

10:00 唐津市役所 出発

途中、昼食

南島原市 口之津港

↓ フェリー

天草市 鬼池港

16:00 ホテル到着

18:00 歓迎会 参加

令和7年7月20日（日）

朝食

07:00 ホテル 出発

08:00 天草茶北じゃっと祭 参加

ペーロン大会 2レース参加

天草市 鬼池港

↓ フェリー（昼食・弁当）

南島原市 口之津港

15:30 唐津市役所 到着

江里孝男 議長・大河内正弘 議員・高倉寛和 議員・野田宗作 議員・古賀博文 議員

5名

1994年10月29日に唐津市と姉妹都市を締結した苓北町に初めて訪問した。諫早、小浜を經由して島原半島の南部の口之津港からフェリーで移動して苓北町に向かった。苓北町は町制施行70周年を迎える人口6,200人の自治体で、天草地域の西部に位置していた。

今回は滞在時間の関係で苓北町の各地を回ることは出来なくて残念だったが、短い時間を有効に使って苓北町を代表する歴史施設、富岡城跡に行って唐津との関連、寺沢広高藩主との関係を勉強した。富岡城は唐津城と同じ寺沢広高が築城した城で、海に隣接していて地理的条件が似ていて唐津との繋がりを感じられた。初めて知ることが多く、再度訪れたい場所になった。

また、歓迎会の場では翌日の第37回天草苓北じゃっと祭（ペーロン大会）に参加される多くの苓北町の方々、長崎市・相生市から訪問しておられた方々とも交流する時間をもてた。

翌日、朝食を済ませ、富岡半島の東側にある富岡巴湾に向かい、8時からの第37回天草苓北じゃっと祭（ペーロン大会）開会式に出席し、その後ペーロン大会が始まった。ペーロン大会は、ファミリークラス・フレンドシップクラス・チャンピオンシップクラスがあり、我々唐津市役所チームは、勝負になりそうなフレンドシップクラスに出場した。簡単に前に進みそうなペーロンは、いざ漕いでみるとスピードに乗るのは容易ではなく、500mが長く感じられ、ゴールに近づくと腕の感覚がなくなり、2レース目は腕の疲れを皆さんの協力で克服し、1レースより好タイムでゴールできた。曇り空で日差し、風もなく、穏やかな海面で気持ちよくレースに参加できた。

ペーロン大会の会場は、陸地と砂嘴に囲まれた海面で行われた。富岡巴湾は海流の影響を受けて細長い砂嘴が形成された珍しい地形で、海岸と砂嘴、海を一望できる富岡城からの景色は、感動と長い歳月を経て造られた自然の力・美を感じられる場所だった。

次回、訪問する機会があれば、苓北町一円を散策できるようにもう少し時間を確保し、特に唐津との繋がりがある富岡城については現地の方、学芸員等の話を聞いてみたい。また、天草・島原一揆当時、富岡城が激戦の地になっているが、富岡城がどのような役割を持っていたのか等についても話を聞いてみたかった。

唐津市議会 視察研修報告書 令和7年7月30日

## 1, 視察概要

日時:2025年7月19(土)20(日)

視察地:熊本県天草郡苓北町富岡

対応者:苓北じゃっと祭、富岡城お城まつり実行委員会

議員名:大河内正弘

内容:7月19日:苓北町商工観光課よりイベント概要説明

### 歓迎交流会

7月20日:天草苓北パーロン大会に出場

## 2, イベントの概要の概要

### ① 苓北じゃっと祭

昭和60年度に発足、名称のじゃっとさいとは「その通りだ」という意味の方言。前日に花火大会、大会当日には様々な催しも行われる。一時コロナ感染症により中断していたが復活した。

### ② 天草苓北パーロン大会

昭和62年に港まつりの1部門の子供大会としてスタート。途中、場所の変更、名称の変更等の変遷を経て現在の

「天草苓北パーロン大会」となる。

### ③参加状況

前日の花火大会、そして当日と町内外の事業者の出店も多数あり大勢の来場者でにぎわう。また大会には例年約20チームの参加があり町民、観光客の声援で盛会な催しとなる。花火大会の来場者数は約3,000人。パーロン大会で約900人と推定されている。

### ④大会に携わる職員の状況

準備、運営、片付けに多数(37回大会のべ65名)。  
代休措置により対応。

## 3, 所感

平成6年に唐津市で開催された「唐津藩400年祭」を機に締結された姉妹都市関係。

唐津城が舞鶴城と呼ばれているのに対し、富岡城をその形から臥龍城と呼ばれ、相互に良く似た地形を持っています。海を見下ろす小山の頂に石垣を築いて城にしたこと。海を濠の代わりに使っていること。海からの視界を遮るために松原があることなどの共通点があり、交流が続いています。

今回、第37回苓北じゃつと祭に江里議長はじめ新生会の一期生議員4名、地域づくり部、他の有志職員総勢20数名で参加させてもらいました。19日の懇親会では長崎市はじめペーロン大会に出場する市町の首長はじめ選手の方々との親交を深めることができました。翌20日、ペーロン大会が開催される富岡港巴港で大勢の人、たくさんのテントの熱気に圧倒されながら開会式、そしてペーロン競争に臨みました。実力どおりフレンドシップというクラスで出場。戦績は言うまでもありませんが、江里議長の掲げた4分以内というタイム目標は達成し、無事にレースを終えることができました。

大会に参加して何よりも感じたのは、8,000人ほどの人口の町でこの規模の催しものが開催できるという可能性とそのためには人と人の繋がりを日頃から大事にしていかなければならないということです。特に今年は、参議院選挙の開票日と重なり、行政職員さんの人材を確保するのも困難だったと思います。姉妹都市との交流がなければ苓北町に足を運ぶ機会はもしかしたらなかったかもしれません。今後も先人たちが

ら続く交流を絶やすことなくより深めるよう努めていきたい  
と思います。

令和7年7月24日

## 令和7年度 政務活動（視察研修）報告書

報告者：高倉 寛和

### 1. 視察概要

- 視察日：令和7年7月19日（金）～7月20日（土）〈1泊2日〉
- 視察先：熊本県天草郡苓北町
- 視察項目：苓北町町制施行70周年記念 第37回苓北じゃっと祭

#### 視察内容

- 7月19日：苓北町商工観光課よりイベント説明、歓迎交流会
- 7月20日：天草苓北ペーロン大会 見学・出場

### 2. 苓北町におけるイベントの説明（7月19日）

苓北町商工観光課から、町を代表する二大イベントについての説明を受けた。

#### （1）苓北じゃっと祭

- 昭和63年度から始まった町民総参加の夏祭り。
- 商工会主催「夏まつり」と観光協会主催「港まつり」を統合し、「町全体で盛り上がる祭り」を目指して誕生。
- 名称は町の方言「じゃっとさい（そうだ、その通りだ）」に由来。
- 花火大会やもち投げ、出店が催され、町民の夏の風物詩となっている。

#### （2）天草苓北ペーロン大会

- 昭和62年に子ども大会として始まり、翌年から本格的に開催。
- 富岡巴湾を舞台に、九州各地からチームが参加。
- 平成15年から「天草苓北ペーロン大会」と名称を定着させ、地域を代表する行事として定着。

#### （3）参加状況と職員の関わり

- 花火大会には例年3,000人前後が来場。ペーロン大会は約900人が集まり、参加チームは20前後と安定。
- 運営には町職員も多数関与し、第37回大会では延べ65人が準備・運営・後片付けに従事。

### 3. 所感

今回の視察では、苓北町の町制施行70周年記念事業の一環として行われた「第37回苓北じゃっと祭」と「天草苓北ペーロン大会」に参加した。

苓北町とは、平成3年に唐津城を訪れたことを契機に交流が始まり、平成6年に正式に姉妹都市となって以来、長きにわたり友好関係を築いてきた。今回改めて、こうした歴史的なつながりが住民レベルの交流にもしっかりと根付いていることを実感した。

歓迎交流会では、唐津市・長崎市・相生市の関係者が一堂に会し、ペーロンを通じた縁の広がりを確認する場となった。特に地元の若い世代や各チームの選手が多数集まっていた点は、地域の祭りが次世代にしっかりと受け継がれている証であり、心強く感じた。

翌日のペーロン大会では、唐津市議会議員と市職員で混成チームを編成しフレンドシップの部に出場した。残念ながら好成績は残せなかったものの、議会と執行部が同じ船を漕ぐ経験は貴重であり、連携の大切さを改めて学んだ。

唐津市ではペーロン大会の開催が途絶えているが、今回の苓北町での取組を目の当たりにし、地域活性化や世代間交流の場として再開を検討する意義は大きいと考える。

50代という立場から見ると、こうした祭りや大会が持つ「地域をつなぐ力」は、まちの持続可能性に直結するものだとして強く感じた。苓北町との交流をさらに深めつつ、本市における地域行事のあり方についても、次世代に引き継ぐ仕組みづくりを考えていきたい。

以上

令和7年7月24日

## 令和7年度 政務活動（視察研修）報告書

報告者：野田 宗作

### 1. 視察概要

- 視察日：令和7年7月19日（金）～7月20日（土）〈1泊2日〉
- 視察先：熊本県天草郡苓北町
- 視察項目：苓北町町制施行70周年記念 第37回苓北じゃっと祭

### 視察内容

- 7月19日：苓北町商工観光課よりイベント概要説明、歓迎交流会
- 7月20日：天草苓北ペーロン大会 見学・出場

### 2. 苓北町におけるイベントの概要（7月19日説明）

苓北町商工観光課より、町を代表する二大イベントについて説明を受けた。

#### （1）苓北じゃっと祭

- 昭和63年度に発足。
- 町内で別々に開催されていた「夏まつり」（商工会主催）と「港まつり」（観光協会主催）を合同開催とし、町民総参加型の祭りとして誕生。
- 名称には、町の方言「じゃっとさい（そくだ、その通りだ）」を採用。
- 花火大会、もち投げ、出店、伝統芸能披露などが行われる。
- 令和2～4年度は新型コロナウイルス感染症により中止されたが、現在は毎年開催されている。

#### （2）天草苓北ペーロン大会

- 昭和62年に「港まつり」で子ども大会としてスタート。
- 昭和63年より富岡巴湾で本格的に実施。
- 平成元年に「九州ペーロン大会」と改称、平成15年からは「天草苓北ペーロン大会」として開催。
- 競漕や体験会を通じて県内外から多くの参加者を集める伝統的な海の行事。

#### （3）町民の参加状況

- 花火大会・出店では町民が家族連れで多数来場し、町内外の事業者が出店。
- ペーロン大会には毎年20チーム前後が参加し、町民や観光客の応援でにぎわう。
- 来場者数は花火大会で約3,000人、ペーロン大会で約900人と推計されている。

#### (4) 職員の関わり

- 準備・運営・後片付けに多数の職員が従事。
- 第37回大会では延べ65名が参加（7月19日：47名、20日：18名）。
- 勤務は代休措置により対応。

### 3. 所感

今回、唐津市の姉妹都市である熊本県天草郡苓北町を訪問し、町制施行70周年を記念した第37回苓北じゃっと祭に参加した。

两市町の関係は、平成3年5月に苓北町が唐津城を視察したことを契機とし、平成6年の「唐津藩400年祭」において姉妹都市提携を結んだことに始まる。

記念行事初日には、苓北町商工観光課より町を代表するイベント「苓北じゃっと祭」と「天草苓北ペーロン大会」の歴史や運営状況について説明を受けた。夜は町主催の歓迎交流会に出席した。交流会には唐津市の峰市長のほか、長崎市や相生市からも来賓が出席し、各地のペーロン関係者が一堂に会する盛大な催しとなった。

翌日のペーロン大会には、唐津市議会議員と市職員による混成チームを編成しフレンドシップの部に出場した。大会はチャンピオンシップの部3チーム、フレンドシップの部11チーム、ファミリーの部6チーム、計20チームで競われ、本市チームは惜しくも予選敗退となったものの、議会と執行部が共に参加することで、交流と連帯感が深まった。

唐津市では近年ペーロン大会の開催が見送られているが、今回の視察を通じて、姉妹都市交流の意義を再認識するとともに、本市における大会の再開についても検討の余地があると感じた。

本視察により、苓北町との歴史的な絆の深さと、今後も継続すべき相互交流の重要性を改めて実感した。两市町が互いの文化や歴史を尊重し、未永く姉妹都市関係を育んでいくことを期待する。

以上

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和7年11月5日

会派名 新生会  
代表者 伊藤 泰彦 様

出張者 檜崎 三千夫  
江里 孝男  
山下 壽次  
野田 宗作

次のとおり、政務活動(要請・陳情活動、調査研究)のため出張したので、その概要を報告します。

1 出張先

10月29日(水) 国土交通省  
10月30日(木) 農林水産省  
10月31日(金) 埼玉県川越市

2 出張日時

令和7年10月29日～令和7年10月31日

3 政務活動事項

10月29日(水) 国土交通省 要請・陳情活動(道路・河川関係)  
10月30日(木) 農林水産省 要請・陳情活動(農林関係)  
10月31日(金) 埼玉県川越市 石畳舗装の維持管理について  
※江里議長は公務があるため10月30日は欠席

4 政務活動結果 別紙のとおり

5 費用 318,330円

【内訳】議長以外3名: 82,790円×3名=248,370円  
議長: 69,960円(10月30日の公務分と按分)

## 唐津市議会要望活動報告書

清風会 梶崎三千夫

日時 令和7年10月29日

行先 国土交通省

内容

会派、党派を超えて唐津市議会として今回国土交通省に要望活動を行った。

国道整備に関する要望と、松浦川改修に関しての2点であった。各所管の担当者に、古川代議士の案内であいさつ回りをして、国道関係の責任者と松浦川関係の責任者の部屋で内容の詳細を議長から詳しく説明をされ、丁寧な対応をして頂きました。

今回は、唐津市議会としての要望活動でかなり効果があったと思われる。

日時 令和7年10月30日

行先 農林水産省

内容

要望項目として、3項目をお願いした。

第1は、米に関する支援について 第2は、中山間地の営農対策について

第3は、原材料の価格高騰対策について

以上3点について、国の考え方を伺った。各担当者の方が、実に多く見えられて丁寧な説明であった。特に中山間地対策に対しては唐津市の大きな問題であるから、活発な議論がなされ時間が足りなかった。夕方には、佐賀県出身の古川代議士と福岡資麿議員と山下雄平議員との懇談会を設定してもらい、貴重な意見交換を行った。

日時 令和7年10月31日

行先 埼玉県川越市

内容

石畳舗装の維持管理についての行政視察を行った。

唐津市も今回、唐津神社の参道を石畳にするという事で、維持管理について行政視察を行った。石畳舗装の整備は16路線の内7路線、延長1、320メートル出来上がっている。昭和60年から調査を始め、平成2年度に菓子屋横丁通り線が完了し、その後地元自治会や関係商店会などと地域との協働により順次整備をされている。

石畳を見せてもらったが、所々石畳のカドがかけているのが目立った。通りにより整備の方法とデザインも違いがあり、最近の施行ではコンクリートに小石を敷き詰め、後で目地を切り込んで石畳風に見せている通りがあった。この方法は費用も安く維持管理もし易いとの事。今までは大きな金額の補修はしていないそうだが、ちなみに石畳は1平方メートル当たり、30～40万円かかるそうである。

## 政務調査報告書

新生会 江里 孝男

### 国土交通省（道路局・河川局）要望

#### 国土交通省道路局 要望内容

- ① 佐賀唐津間道路の整備促進（唐津～相知間）
- ② 西九州自動車道の整備促進
- ③ 国道 202 号唐津バイパス唐津大橋の 4 車線化の整備促進
- ④ 自動車道路関連用地の休憩施設設置促進

以上の 4 点を下記の部署へ要望を行った。

#### 要望者

国土交通省技官 廣瀬 昌由 氏

国土交通省道路局次長 石和田 次郎氏

また、道路局長・道路交通管理課長・国道技術課長・高速道路課長・参事官は留守のため代理で受け取っていただいた。

#### 国土交通省河川局 要望内容

- ① 徳須恵川（千々賀・山本地区）の河川改修の促進
- ② 巖木川（町切・本山地区）の早期改修の着手
- ③ 巖木川（かわまちづくり）事業の促進

以上 3 点について、下記に要望を行った。

#### 要望者

水管理・国土保全局長 林 正道 氏

水管理・河川計画課長 西澤 賢太郎氏

水管理治水課長 笠井 雅広 氏

尚、水政課長・河川環境課長・治水課長は留守のため代理で受け取っていただいた

廣瀬技官からは、現在補正予算の時期であるため要望をしっかりと精査し期待に沿えるよう努力したいとのことであった。

尚要望時には、前副大臣の古川康代議員も同行していただいた。

## 政務調査報告書

江里孝男

令和 7 年 10 月 31 日埼玉県川越市

### 「石畳舗装の維持管理について」

川越の街は、江戸情緒を残す蔵造りの建造物などが残っていたが、一時期は商店街も活気をなくし、歴史的建造物の保存も危ぶまれていた。

住民の力を中心に、歴史ある建物の保存や地域の活性化を成し遂げ、いまや年間 700 万人以上の観光客などが訪れる活気ある街に変貌を遂げている。

このような、地域の取り組みは、長年の住民の努力のもとに培われてきたものだが、背後には行政のサポートもある。

「川越市では、昭和 47 年に、当時取り壊しの危機にあった蔵造りの旧小山家住宅を買い取り、その後『蔵造り資料館』とし、蔵造りの価値にいち早く気づいた住民の保存の意向を汲んでの措置で、このほかにも、地域の発展をサポートするため、川越市ではインフラの整備も行ってきた。

平成 4 年には、一番街通りの電線地中化を実施。「歴史的地区環境整備街路事業」では、市内の 16 路線の道路のい石畳舗装が計画され、現在の実績として 7 路線延長 1, 3 2 0 m が完了している。



これは、観光地としても認知される川越の町並みを「道」という側面から整え、アスファルトの道路から石畳などに変更し往来の人々の回遊性を高めようというものである。

単に石畳などに変更するのではなく、それぞれの通りにあったデザインが採用されている。

菓子屋横丁では、ガラスブロックをところどころに埋め込んでいます。

これは菓子屋横丁の代表的なお菓子、飴玉をイメージしたものです。このほか大正浪漫夢通りでは、他の通りの多くが細かな石畳を組み合わせているのに対し、通りの直線性を活かす自然石の舗装としモダンな印象を生み出しています。

#### 石畳舗装の維持管理の課題

① アスファルト舗装に比較して補修頻度が高くなっている。

令和4年度8件・令和5年度8件・令和6年度12件

② 自然石を組み合わせているため、補修の難易度が高い。

③ 事後保全の維持管理にかかる費用が増加している。

1平方メートルあたり10万～30万円

#### 所見

川越市の町並などを考えると景観を配慮した石畳舗装はいいと思うが、唐津市に当てはまらないように感じた。

また、維持補修については、唐津市においては、職員で対応するとのことであったが、川越市の経験から職員での補修は無理とのことであった。



川越市  
議会事務局

副事務局長 兼 議事課長

田 中 尚

〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3番地1  
TEL : 049-224-6067  
FAX : 049-224-5394  
E-mail : giji@city.kawagoe.lg.jp

川越市  
議会事務局 議事課 議事担当

竹ノ谷 智 昭



〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3番地1  
TEL (049)224-6067  
FAX (049)224-5394  
E-mail giji@city.kawagoe.lg.jp

時が人を結ぶまち 川越



川越市マスコットキャラクター ときも

建設部  
副部長 兼道路街路課長

吉 田 昌 弘

川越市役所

〒350-0036 埼玉県川越市小仙波町2丁目50番地1  
TEL : 049-224-5989 (直通)  
E-mail : dorogairo@city.kawagoe.lg.jp

時が人を結ぶまち 川越



川越市マスコットキャラクター  
ときも

川越市 建設部 道路環境整備課  
課 長

小 嶋 裕  
KOJIMA YUTAKA

〒350-0054 埼玉県川越市小仙波町2丁目50番地1  
TEL : 049-224-8811(代表) 049-224-6029 (直通)  
FAX : 049-222-6017  
E-mail : doroseibi@city.kawagoe.lg.jp  
U R L : http://www.city.kawagoe.saitama.jp/



川越市マスコットキャラクター  
ときも

時が人を結ぶまち 川越

川越市 建設部 道路街路課  
主 査

むろ おか み ち え  
室 岡 美 智 恵

〒350-0036 埼玉県川越市小仙波町2丁目50番地1  
TEL : 049-224-8811(代表) 049-224-5989(直通)  
FAX : 049-224-8965  
E-mail : dorogairo@city.kawagoe.lg.jp  
U R L : http://www.city.kawagoe.saitama.jp /

## 要望活動及び視察研修報告書

新生会

山下 寿次

日 時 令和7年10月29日

要望先 国土交通省道路局ほか

要望事項

- ・ 佐賀唐津道路の整備促進（唐津・相知間）
- ・ 西九州自動車道の整備促進
- ・ 国道202号唐津バイパス唐津大橋4車線化の整備促進

唐津市の地域振興・自然災害時の物流網・原子力災害時の避難経路として重要な道路であることを鑑み、佐賀唐津道路（唐津・相知間）は新規事業化の早期着手を、西九州自動車道は福岡県の未着手区間である佐賀県内の伊万里道路や伊万里松浦道路、福岡県の二丈～二丈鹿家間の早期整備着手及び4車線化、休憩施設の設置を、国道202号唐津バイパス唐津大橋は唐津市交通の軸であることを踏まえ、4車線化の早期整備に必要な予算確保を要望。

日 時 令和7年10月30日

要望先 農林水産省農産局企画課ほか

要望項目の勉強会

- ・ 再生産が可能となるコメ生産者への支援について
- ・ 中山間地における将来の営農対策について
- ・ 農業分野における原材料価格高騰対策について

コメ増産に舵を切る政策転換が表明され、唐津市の生産者から営農継続に対する不安の声、農業従事者の高齢化、生産条件が不利な中山間地域で持続的農業を構築するための総合的な支援、農業資材等の価格高騰に対する総合的かつ継続的な支援策の構築について、令和8年度予算概算要求について説明を受けた。その後、唐津市の農業、中山間地農業の課題である農業従事者の高齢化・減少、規模拡大・生産効率の困難さ、飼料・燃料価格高騰高止まりなどについて

て意見交換をした。これらを踏まえ、中山間地域農業が継続できる施策の展開を要望。

日時 令和7年10月31日

行先 川越市

目的 石畳舗装の維持管理について

#### ○市の概要

- ・人口 352,673人（令和7年4月1日現在）
- ・面積 109.13平方キロメートル

川越市は埼玉県の中央部より南より、武蔵野台地の島北端に位置し、気候は温和で、JR、私鉄などの交通網が発達。東京のベッドタウンとして人口は増加。平成15年中核都市に移行。

#### ○所感

川越市は歴史的な街並みや道筋の保全などを街路整備によって行い、地域魅力の向上を図り、同時に居住環境を高める歴みち事業において、石畳舗装を整備。令和7年3月末で16路線中、7路線、延長1,320メートルが施行済。

自然石材を敷きならべることにより、景観性が高く、視覚的に高級感を感じられるが、走行性として表面の凸凹による車両と運走行環境、雨天時に歩行者が滑りやすくなることが考えられるとのこと。また、一般的なアスファルト舗装と比較して、補修頻度がやや高くなる。補修の難易度についても自然石材を組み合わせているため、難易度が高くなり、さらに、現場状況ごとの補修費用が高額になって維持管理費の増嵩に繋がることが考えられるとのこと。

川越市では平成2年度に「菓子屋横丁通り線」が完成し30年以上が経過している。これまでの経験を踏まえ、走行性、耐久性に優れ景観性にも配慮したアスファルト系舗装（半たわみ性景観舗装、型押し景観舗装）を採用しているとのこと。

唐津市では令和7年・8年の2か年で、明神線を石畳舗装に計画している。後年度の維持管理の財政負担ができるだけ軽減されるよう、道路本来の目的である走行性、耐久性に十分配慮した施工計画、管理が必要と考える。

令和7年11月10日

## 令和7年度 政務活動報告書

報告者：野田 宗作

視察日：令和7年10月29日（水）～10月31日（金）〈2泊3日〉

視察者：新生会（江里、橋崎、山下、野田）、志政会（中山）、新風唐津（松本、井手）

公明党（水竹）、唐誠会（片峰）、市民リベラル（伊藤）、共産党（黒木）11名

視察先：①東京都千代田区2丁目1番3号「国土交通省」

②東京都千代田区2丁目1番2号「農林水産省」

③埼玉県川越市元町1丁目3番1号「川越市役所」

視察目的：①唐津市の国道整備促進に関する要望活動

松浦川改修事業促進に関する要望活動

②唐津市の農業制作に関する要望活動及び農政勉強会、意見交換

③石畳舗装の維持管理について

### 1. 視察内容

①国土交通省（10月29日）

道路局次長の石和田氏と面談。唐津市の国道整備促進に関する要望として、下記3点を行う。

- ・佐賀唐津道路の整備促進（唐津-相知間）
- ・西九州自動車道の整備促進
- ・国道202号唐津バイパス唐津大橋4車線化の整備促進



水管理・国土保全局長の林氏と面談。松浦川改修事業促進に関する要望として、下記3点を行う。

- ・徳須恵川中下流部（石志地区、千々賀地区、北波多大杉地区）の河川改修事業の促進
- ・巖木川中流部（町切地区及び鶴地区）の河川改修事業の促進及び本山鉄道橋、本山県道橋早期架替促進
- ・巖木川中島地区からまちづくり事業の推進



技監の廣瀬氏と面談。唐津市の国道整備促進に関する要望及び松浦川改修事業促進に関する要望を行う。



## ②農林水産省（10月30日）

衆議院第2議員会館B1階第8会議室にて要望、農政勉強会、意見交換を実施。

1 項目目：再生産が可能となるコメ生産者への支援について

農林水産省出席者

農産局企画課	課長補佐	立石氏
農産局企画課	企画官	見城氏
農産局穀物課	係長	小岩氏
経営局経営政策課	経営専門官	花木氏
経営局経営政策課	経営専門職	荻野氏
経営局農地政策課	経営専門官	安浪氏
経営局就農・女性課	係員	西條氏

2項目目：中山間地における、将来の営農対策について  
農林水産省出席者

経営局経営政策課	経営専門官	花木氏
経営局経営政策課	経営専門職	荻野氏
経営局就農・女性課	経営専門官	高木氏
農村振興局地域振興課	課長補佐	増岡氏

3項目目：農業分野における原材料価格高騰対策について  
農林水産省出席者

農産局技術普及課	課長補佐	島氏
農産局園芸作物課	課長補佐	児島氏
畜産局飼料課	課長補佐	上条氏
経営局保健課	課長補佐	藤原氏



③川越市役所（10月31日）  
石畳舗装の維持管理について  
川越市役所出席者

建設部	副部長兼道路街路課長	吉田氏
建設部	道路環境整備課長	小嶋氏
建設部	道路街路課主査	室岡氏
議会事務局	副事務局長	田中氏

・川越市の概要

人口：352,670人（R7.10.1現在）

面積：109.13km<sup>2</sup>

・石畳舗装箇所の概要

伝統的建造物群保存地区があり、そこを取り囲む形で歴史的地区環境整備街路事業地区を設定している。歴史的地区環境整備街路事業地区の面積は約130ha、路線延長は約3,850mとなっている。路線は全部で16路線。石畳舗装の整備実績は16路線のうち7路線、延長1,320m（全体の34%）となっている。また、アスファルト系舗装は16路線のうち4路線（全体の29%）となっている。

・石畳舗装の補修

石畳補修実績

R4：8件、R5：8件、R6：12件

川越市の担当で、道路管理事務所があり、技術職員を14名配置している。1㎡当たり10～30万円の補修費用がかかっている。

・石畳舗装の維持管理の課題

- 1.一般的なアスファルト舗装に比べて、補修頻度がやや高くなる。
- 2.自然石材を組み合わせているため、補修難易度が高くなる。
- 3.整備と修繕を含めた費用について、事後保全型の維持管理に係る費用が増加していく。
- 4.小規模補修（市職員での対応）から面的補修（業者委託）に頻度が増加していくことにより現場状況ごとの補修費用が高額になる

・最近の道路舗装の計画

石材（自然石材）・ブロック（タイルブロック、インターロッキングブロック）系舗装は景観性に優れた舗装工法であり、駅前広場、公園、歩道などで採用されている。車両等が通行する道路は維持管理の課題を踏まえ、走行性、耐久性に優れ、景観性にも配慮したアスファルト系舗装（半たわみ性景観舗装、型押し景観舗装）を計画段階から検討し、採用している。



## 2. 所管

①国土交通省に対して、佐賀唐津道路、西九州自動車道、国道202号唐津バイパス（唐津大橋）4車線化の整備促進、松浦川改修事業の推進について、唐津市議会として要望を行うことができた点は、大きな意義があったと考える。過去にも各会派により要望活動が行われ、一定の成果に結びついたものと認識している。

今後も、地域産業の振興や防災・減災等の観点から、事業の早期実現に向け、継続的かつ粘り強く要望活動を行っていく必要がある。

②農林水産省においては、本市からの要望事項に即した勉強会を実施いただいた。内容として、コメ生産者への支援、中山間地域における将来的な営農対策、農業分野における原材料価格高騰対策等について、現行の支援制度および令和8年度予算概算要求の概要を確認するとともに、現場生産者の意見を直接伝え、支援策の拡充を要望する機会となった。

また、中山間地域振興に関しては、「中山間地農業ルネッサンス推進事業」「農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業」「山村活性化支援交付金」等の制度について理解を深め、地域における活用可能性を検討する上で有益な知見を得ることができた。今後は、地域関係者との情報共有を図りつつ、地域の意向を踏まえ、制度活用について検討を進めていく所存である。

③川越市における石畳舗装の維持管理について、座学および現地視察を通して調査を行った。現地では、自動車の通行状況により、補修の頻度が大きく異なることを確認した。石畳は、通常の舗装道路と比較して維持管理費が高額となることから、本市においても将来の維持管理を見据え、施工手法について慎重な検討が必要であると感じた。

また、川越市では石畳舗装とあわせて、蔵造りの街並み保存にも力を入れており、沿道には多くの商店が立ち並んでいた。視察日は平日であったにもかかわらず、多くの観光客で賑わっていたことが印象的であった。本市においても、石畳舗装のみならず、沿線の景観形成や街並みの保全・活用について総合的に検討するとともに、生活道路として利用する地域住民の意向についても丁寧にヒアリングを行う必要があると考える。

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和7年11月6日

会派名 新生会  
代表者 伊藤 泰彦 様

出張者 大河内正弘

次のとおり、政務活動（調査研究）のため出張したので、その概要を報告します。

- 1 出張先  
熊本県天草郡苓北町
- 2 出張日時  
令和7年10月25日（土）～令和7年10月26日（日）
- 3 政務活動事項  
麟泉運動公園  
富岡城お城まつり
- 4 政務活動結果 別紙のとおり
- 5 費用 13,050円

# 新生会会派 議員研修復命書

令和7年11月6日

報告者 大河内正弘

研修年月日：令和7年10月25日（土）～26日（日）

研修場所：熊本県天草郡苓北町

研修内容：①苓北町麟泉運動公園 視察

：②富岡城まつり 参加

## ① 概要

平成22年度にスポーツ振興くじ助成金の申請を行い、翌年度に坂瀬川グラウンドを天然芝生化し、管理運営している。本グラウンドを利用して町内でグラウンドゴルフ大会やサッカー大会の実施、合宿地の誘致も行っており、県内外の小中学生やクラブチーム等多数が参加。また、体力作りのウォーキングも盛んであり、予想をはるかに越える利用がある。

また今後発生が予想されている南海トラフ大地震による被災者用の仮設住宅用地として、緊急防災・減災事業債を活用し、拠点避難地として整備された。

避難地上部について、平常時に地域住民の憩いやレクリエーションの場として親しまれる公園の機能も有する芝生広場、ラグビー場、サッカー場、遊歩道・遊具等の付帯設備のある防災運動公園等を整備。高校生、大学生、社会人のリーグ戦の受け入れ、キャンプ地、合宿の受け入れも計画しており、ラグビー及びサッカー競技の普及の場として交流人口の増加による町活性化を推進していく予定である。併せて、芝生広場でのウォーキングや、遊歩道、遊具等の利用により、町民の健康増進を図る機能を集約した施設の一大拠点として活用されている。

## 所感

現在、総合グラウンドの意義として、多様な人々が様々なスポーツやレクリエーション活動を総合的かつ継続的に行うための拠点として機能し、地域社会に多面的な価値を提供することの必要性を認識しました。

また防災拠点としての機能も備わっていないとせず災害発生時に広域避難場所や防災拠点としての役割も重要となってくることだと感じました。

## ② 概要

「苓北町町制施行70周年記念 第9回富岡城まつり」

江戸時代の唐津藩初代藩主である寺沢広高にゆかりがあることに由来して唐津市と姉妹都市である苓北町。記念式典である「富岡城まつり」は天草・島原の乱で一揆勢の猛攻に耐え落城しなかった名城「富岡城」を舞台に開催される歴史と自然を満喫できるイベントである。

## 所感

姉妹都市としての交流を通して、行政や文化、経済面での相互協力や交流促進による先進的なノウハウや地域運営の知見を共有することができる。また交流事業を通じて人材、文化、地域の資源を生かしたソフト面での振興を図ることができる。

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和7年11月11日

会派名 新生会  
代表者 伊藤 泰彦 様

出張者 伊藤 泰彦  
吉村慎一郎  
岡部 高広  
古賀 博文  
大河内正弘  
高倉 寛和

次のとおり、政務活動（調査研究）のため出張したので、その概要を報告します。

1 出張先

- 11月4日（火）和歌山県和歌山市
- 11月5日（水）奈良県桜井市
- 11月6日（木）京都府京都市

2 出張日時

令和7年11月4日（火）～令和7年11月6日（木）

3 政務活動事項

- 11月4日 和歌山県和歌山市「和歌山城ホールの管理運営について」
- 11月5日 奈良県桜井市「桜井駅南地区まちなかウォークブルについて」
- 11月6日 京都府京都市「京都市中央市場新水産棟の環境配慮と災害時の業務継続について」

4 政務活動結果 別紙のとおり

5 費用 523,680円

行政視察報告書  
(2025年11月4日～11月6日)

新生会 伊藤泰彦

1和歌山県和歌山市  
(和歌山城ホールについて)

・和歌山市の概要

総人口:350,422人 面積208.8km<sup>2</sup>

○建設に至った経緯

旧和歌山市民会館の老朽化のため移転新築されたもの。2019年7月24日建設工事開始、2021年10月和歌山城ホール完成。周辺には和歌山城や和歌山市役所、和歌山中央郵便局など市の施設が集積している。

○施設の概要

客席数 954席(大ホール)

395席(小ホール)

延床面積 14,110.10m<sup>2</sup>

設備 会議室・リハーサル室・屋上等

用途 コンサート・展示会・演劇・レセプション等

○管理運営の概要

2021年建設から2年間は以前からの指定管理者である「文化スポーツ振興財団」が管理運営していたとの事。

現在は全国68自治体の施設管理運営を受託している「株式会社ケイミックスパブリックビジネス」が公募により管理運営している。

○令和6年度の収支について

収入232,116,920円 支出220,730,212円 11,386,708円の黒字

・所感

本市では市直営での管理運営とのことで赤字覚悟での運営方針が示されている。やはり初年度より施設管理はプロフェッショナルの民間事業者に運営を委託するのが適切であると痛感した。設備についてもリハーサル室や機材搬入口の広さなど十分に確保してある余裕のある施設であった。

## 2奈良県桜井市

(桜井駅南地区まちなかウォーク推進事業について)

### ・市の概要

総人口:52,447人(2025月31日現在) 面積:98.92km<sup>2</sup>

### ○本社会実験を取り組んだ経緯について

平成28年 奈良県と桜井市でまちづくりに関する包括協定を締結

市が都市再生推進法人に桜井市まちづくり株式会社を指定

平成30年 「桜井駅南口広場整備計画」を特定事業に位置付け

駅周辺の公共施設を含めたバリアフリー化などの整備計画を策したが財政的な理由から事業ストップ

令和2年 国交省のまちづくりウォーク推進事業が活用できたので、社会実験に取り組んだ。

### ○社会実験の内容と結果について(社会実験を令和3年度から6年度実施)

歩行者空間に人工芝を敷き、テーブル、ベンチを置いての滞在調査

駅前マルシェと題し移動式の屋台を設置し、飲食物の販売実施

市管理の一時駐車場エリアを活用し滞留調査や行動調査を実施

### ○社会実験の活用について

令和7年から8年度の2か年で進めている「桜井駅南口広場再整備基本計画」に結びつけるとともに、計画策定の重要な資料として活用。

### ○シンポジウムの内容と結果

令和7年1月に「桜井駅南口周辺のまちづくりについて考える」と題し社会実験の取りまとめとして、第1部「国交省の担当職員の講演」、第2部「パネルディスカッション」を実施。

### ○今後の活用に向けた内容について

令和7年、8年の2か年で「桜井町南口広場整備基本計画」を策定

今後産官学金民で取り組みを進めていく。

### ○所感

本市には唐津城や曳山展示場など魅力ある多数の観光地が点在しているが、歩いて周遊できる施策が必要である。本市でも再考しなければならない課題。

### 3 京都府京都市

(京都市中央市場水産棟について)

・市の概要

総人口:1,312,559人 面積:827.8km<sup>2</sup>

#### ○建設に至った経緯

昭和2年に日本初の京都市中央市場は、これまで95年以上にわたり、市民の食生活や世界に誇る「京の食文化」を支えてきた。しかしながら、主要建築物が築後40年近く経過、施設の老朽化、衛生管理の向上や物流の高度化など、社会的なニーズに答えられなくなった。このため平成27年3月に「京都市中央市場施設整備基本計画」を策定し再整備し、令和5年3月22日から全面オープンとなった。

#### ○施設規模等

建築面積:29,200m<sup>2</sup> 延床面積:42,100m<sup>2</sup>

南北全長:約300m 東西最大幅約:150m

建物高さ:約20.8m(地下3階建て) 総工費約170億円

#### ○衛生管理の強化

鮮魚部門(I期エリア)では、全国初の独自衛生管理基準「京都基準」を策定。完全閉鎖型施設。害虫などの侵入を防ぎ、入荷～卸売～出荷まで温度管理がシームレスで行われるコールドチェーンを確立。機械換気を備え、室内の換気・二酸化炭素濃度などの基準をクリア。

#### ○見学エリア(観光・教育機能)

2階に見学通路があり、全長約260m。

開放時間は5:00～17:00。見学通路では、ガラス越しにせりを見学可能。せりがない時間帯は映像・解説で体験できる。

モトラ(小型運搬車)の疑似運転体験など、インタラクティブな展示がある。

タッチパネルやクイズ、プロの一日の仕事をマンガ形式で紹介するコーナーあり。

#### ○食文化発信拠点の設置

“食の京都”情報発信拠点を構えており、地元京都の農林水産物を紹介。

加工食品の自販機、ECサイト連携もあり、場内で商品の購入が可能。

観光客だけでなく、地元の食育・文化理解を促進する役割もある。

#### ○物流効率・機能強化

Ⅱ期エリア(塩干・総合部門)が令和5年3月に営業開始。  
見学者通路とは別に、業務用の流通エリアが効率化されている。  
老朽化した従来施設に比べて、施設の耐久性・衛生性能ともに大幅に向上。

○公共インフラとしての重要性

京都市中央市場は95年以上の歴史があり、市民の食生活を支える重要な流通拠点。

市が市場整備を進める中で、安全安心な食材供給、災害時のレジリエンス(強靱性)の確保も目的に含まれている。

○所感

今回の見学を通じ、京都市中央卸売市場は「伝統と近代化が両立する生鮮流通の中核拠点」と確認できた。

品質管理、物流効率化、地域ブランド発信、社会的役割のいずれにおいても高い水準にあり、事業者にとって多様なビジネス機会を提供する存在と評価できる。

## 行政視察報告書

新生会 吉村慎一郎

### 1. 視察日

令和7年11月4日（火）～6日（木） 2泊3日

#### ■視察先及調査項目

令和7年11月4日 午後3時～午後4時30分

視察先：和歌山県和歌山市 和歌山城ホール 人口350,422人

調査項目

- ・現在の運営状況と催事の企画運営について
- ・施設料金の設定根拠について
- ・建設と運営者の関係性（民間の活用）について

内 容

#### (1) 運営状況

- ・指定管理者：株式会社ケイミックスパブリックビジネス
- ・募集方法：公募
- ・業務内容
  - ①文化芸術の鑑賞及び発表の場の提供に関する業務
  - ②文化芸術及び学術に関する創作及び集会の場の提供に関する業務
  - ③経済活性化に向けた見本市等の場の提供に関する業務
  - ④文化芸術に関する催しの企画及び実施に関する業務
  - ⑤市内外の交流の機械及び本市のにぎわいの創出に関する業務
  - ⑥その他必要と認める業務

#### (2) 催事の企画運営について

基本協定書及び仕様書に定めており、指定管理者が行うものとしている。

##### ①企画提案事業

仕様書に基づき「鑑賞事業」「表現の場提供事業」「創造事業」「育成事業」「交流事業」「にぎわい発信事業」「和歌山城ホール5周年記念事業」を行う。（備考：年間25事業を目安に実施。指定管理料から支出可能。）

##### ②自主事業

指定管理者の責任と費用により自主事業を実施することができる。

（備考：市が示す管理運営業務の事業は含まれない。指定管理料から支出可能。）

#### (3) 施設料金の設定について

施設料金については、条例に規定しており、「条例に定める基本利用料金の額を超えない範囲内において、指定管理者があらかじめ市長の承認を受けて定める額」としている。算定については、当ホールの前身である「和歌山市民会館」の料金設定を基に、近隣の類似施設等の料金設定も踏まえ、比較検討を行いながら設定した経緯がある。

#### (4) 建設及び運営者の関係性について

- ①建設費用（総工費）については、110億8,522千円である。
- ②建築面積：4810.29㎡、延床面積14110.10㎡
- ③大ホール954席・中ホール395席
- ④エントランスホールや展示室、ホワイエ等の市民への開放については、開館

時間中など利用できる。展示室、各ホールのホワイエは、貸館施設となるため、市民への開放は行っていないが、展示室利用者が優先で、展示室前の広場について、目的外使用許可による活用を行っている。

(5) 利用の流れ（システムの活用や電子決済状況等）

施設利用については、本市共通の予約システムである「和歌山市公共施設案内・予約システム」を使用している。システムを利用する際には「利用者登録」を事前に行う必要がある。予約については、月初に抽選会を行っている。申請書を窓口提出の上、前納利用料金を支払うことで本予約が完了する。抽選会以降の予約については空きがある場合は、翌日から先着順で受付する。決済方法については、指定管理者の指定する方法で、現時点でのキャッシュレス決済の導入はない。

所 感

本市では2027年3月のオープン予定で、唐津市新市民会館（仮称）が新設される。当施設は収容人員819席の大ホールをメインとし、からつくんちの曳山を展示する曳山展示場も併設される。施設のオープン当初は市の直営との方針であることから、客席数が同規模である和歌山城ホールの政務調査を行った。

本市との違いは和歌山城ホールは、オープン当初から指定管理者制度を導入されており、令和6年度収支は11,386千円の黒字である。本市の市民会館についても直営でノウハウを持たない市の運営には疑問であり、（当初から赤字経営）オープン当初から指定管理者制度を導入し、改善を図りながら黒字化へ導き健全な市民会館運営に努めるべきであると感じた。今後、指定管理者制度導入について働きかけて行きたい。

■視察先及調査項目

令和7年11月5日 午後1時30分～午後3時

視察先：奈良県 桜井市役所 人口53,915人

調査項目

- ・本社会実験に取組まれた経緯について
- ・社会実験の内容と結果について
- ・シンポジウムの内容と結果について
- ・今後の活用に向けた内容について

内 容

(1) 社会実験に取組まれた経緯について

平成28年に桜井まちづくり株式会社が設立された。同年、市が都市再生推進法人に指定。まちづくり会社は駅周辺における賑わいづくりに寄与したり、歴史的価値のある空き家を改修し、宿泊施設やカフェとして利活用し、運営されている。また、都市再生推進法人であることのメリットの1つとして駅前広場に関し都市再生整備計画の提言を市に行っている。こちらがウォークアブル推進事業の基礎となった。国の補助金を使う事業は、原則はソフト事業の先に整備のハード事業がないと進められないことが多いが、この国交省管轄のまちなかウォークアブル推進事業は令和2年にできたばかりの事業で、そのあたりを柔軟に対応してもらえたという点、また広場整備を目指した社会実験のみに使えるということもあり、桜井市の状況とう

まく合致するものだった。実際のハード整備まで進めるのは難しくとも、これまで続いてきたまちづくりの流れを止めないために活用することとなったもの。

## (2) 社会実験の内容と結果について

ウォークアブル推進事業の社会実験は令和3年から4年間行った。「桜井駅南周辺における滞在環境向上に関する取り組み」歩行者空間に人工芝を敷き、テーブルやベンチ等を置いて人がどのように滞在されるのか調査した。同時に駅前マルシェと題して移動式の屋台を設置し、飲食物等の販売を行った。2年目は広範囲で滞留調査や行動調査実施。事業期間中に行った検討会やワークショップで出された多種多様基本計画」に結びつけるとともに、計画策定の重要な資料として活用する。

## (3) シンポジウムの内容と結果について

令和7年1月25日に「桜井駅南口周辺まちづくりについて考える」と題し、社会実験のとりまとめとしてシンポジウムを行い、約90名の参加があった。第1部には国交省から2名の担当職員に来ていただき、「居心地が良く歩きたくなる街中とは」と題し、講演いただいた。第2部ではパネルディスカッションを行い、駅周辺において現時点で取り組んでいる内容を発表していただいた。

## (4) 今後の活用に向けた内容について

4年間のウォークアブル推進事業による社会実験の調査結果や、ワークショップ、シンポジウムで出た意見を元に、本年度と来年度の2か年で、「桜井駅南口広整備基本計画」を策定の予定。9月に委託業者選定のプロポーザルを行い、現在計画策定に向けて動いている。策定にあたり、庁舎内の関係部署での庁内会議や、まちづくり会社、地元商店主をはじめ、金融機関や交通事業者も入れた会議組織作り、産官学金民で取り組みを進めたい。

## 所 感

本市では、市の玄関口となるJR唐津駅前の小さな再開発（アルピノ跡地）が検討されている。また、歩いて行動できる範囲に市役所や市民会館、商店街などがある。

本市は観光地ではあるものの、単発的に車で施設を巡ることが多く面的な周遊性が乏しいため、歩いて周遊できまた滞在させる取り組みが必須である。今回の視察で学んだ事を生かしていきたい。

### ■視察先及調査項目

令和7年11月6日 午前9時～午前11時

視察先：京都府京都市 京都市中央市場水産棟

調査項目

- ・環境配慮型設備の内容について
- ・耐震性強化の内容について
- ・市場内視察について

## (1) 環境配慮型設備の内容について

マイクロコージェネレーションシステムとは天然ガスなどを燃料として発電し、その排熱を給湯や冷暖房に利用するシステム。

エネルギー効率がが高く、省エネルギーとCO2排出量削減に貢献する。小型の機器が主体で、停電時にも自立した電源として稼働できる。BEMS（使用量の可視化）については、市場施設内のエネルギー使用量を一元的に管理・最適化するシステムであり、

電力、空調、照明などのエネルギー消費をリアルタイムで監視し、データに基づいて最適な制御を行うことで、省エネ、コスト削減、CO2 排出量削減などを実現している。

(2) 耐震性強化の内容について

この市場の建物は、震度6～7程度の規模の地震に対しても、倒壊又は崩壊する危険が低いと認められる耐震性能の1.25倍の基準で建設されている。

(2) 市場内視察について

普段見ることのできない市場の活気ある様子を安心してゆっくり見学することができる約260mの通路を整備。市民や観光客に開かれた市場として、市民の皆様に着している「食彩市」、「鍋祭り」などの取り組みを継続。「和食」や「京の食文化」を支える料理人と連携した体験型イベントの開催。

所 感

本市には、2つの地方青果市場があり、施設の老朽化（建設から50年以上経過）や大型車の乗り入れなどの問題解決のため2025年10月にその2つの青果市場が統合され「唐津中央青果市場」が営業を開始した。取扱高は年22億円を目指している。新たな拠点として、唐津玄海地区の生産者と消費者を繋ぐ役割が期待されている。

今回の視察で、中央卸売市場と地方卸売市場の規模は大きく違うものの、消費者への安全・安心な農産物を届けていく市場の目的は同じである。また、公正な価格形成、効率的な分荷を通じて消費者の食生活を安定させること。具体的には、新鮮で安全な青果物の安定供給と生産者と消費者の双方にメリットのある流通システムを構築すること等が改めて理解することができた。今回の市場統合には、環境配慮型設備については取り入れてないが、今後の課題として発信して行きたい。

1 和歌山県 和歌山市（人口：約35万人）

和歌山城ホール

① 和歌山城ホールの建設経緯

他の場所にあった「和歌山市民会館」が老朽化し移転新築された。新築された和歌山城ホールの周辺には和歌山市役所や和歌山中央郵便局など、市の主要施設が集積していてホールの前には歴史を感じさせる和歌山城が在り、市民が訪れやすい場所に立地していた。

敷地面積：6,627.84㎡

建築面積：4,810.29㎡

延床面積：14,110.10㎡

建設工事開始：2019年7月 2021年10月完成 総工費：約106億円

② 管理運営

管理運営方法：指定管理者制度（利用料金制）

指定管理者：株式会社ケイミックスパブリックビジネス

募集方法：公募

③ 収支等（令和6年度）

収入：2億3,212万円（内、指定管理料収入：1億4,284万円）

支出：2億2,073万円

所感：

現在、建設中の唐津市市民会館（仮称）は、市の直営で管理・運営を行う方針であるが、和歌山市の担当者の見解は、市の直営は難しいとの意見であった。理由として市の職員に管理・運営に対するノウハウを有している職員がおらず、現場を経験した職員がいないというのが主な理由であった。

和歌山市も会館当初、外郭団体に2年間指定管理を委託したが、結局はノウハウを持った業者に委託する経緯を辿っている。特に興行等を行う場合や自主事業を企画することは専門的な知識と経験が必要で、市の職員が尽力しても業務を行うことは難しいのではないかと感じた。

以上のことから令和9年度に開館する唐津市市民会館（仮称）については、未だ時間があるので管理・運営について再度、考察する必要があると感じた。

## 2 奈良県 桜井市 (人口：約5万4千人)

### 桜井駅南地区まちなかウォークブル推進事業

#### ① 社会実験に取り組んだ経緯

平成28年 奈良県と桜井市(5地区)で「まちづくりに関する包括協定」と結ぶ  
桜井まちづくり株式会社を設立、都市再生推進法人に指定を受ける  
平成30年 「桜井駅南口広場整備事業」を特定事業計画に位置づけ  
令和2年 国交省のまちなかウォークブル推進事業

#### ② 社会実験の内容と結果

令和3年度から4年間、ウォークブル推進事業の社会実験を行う。

1年目：人工芝の設置 テーブルやベンチ等の設置 → どのように滞在するかを調査 移動式の屋台を設置 飲食物等の販売等  
2年目：広範囲で滞留調査・行動調査を実施 路上駐車や駐車場の台数調査 駅前でのどのような飲食店舗が求められているかを調査  
3～4年目：検討会・ワークショップを開催 「桜井駅南口広場再整備基本計画」に結びつける

#### ③ 今後の活用に向けて「桜井駅南口広場再整備基本計画」

令和7年9月～：委託業者選定をプロポーザル

庁内、金融機関、まちづくり会社、地元商店主、交通事業者も入れた会議を組織

#### 所感：

駅前広場の再整備計画は事業費が高額となり、市のみでは実施が難しく、現地を見ると、本市と同じく空き店舗が多い感じを受けた。桜井市は大阪まで約50km、京都まで60kmに位置し、桜井駅にはJRと私鉄(近鉄)が乗り入れているので、駅を利用される方は唐津駅よりも多いと推定されるが、桜井市も人口減少が進んでいる中、今後どのように事業が進むのか注視したい。数年後、整備が完了した時点で再度訪れて、事業効果を確認したい。

本市の唐津駅前再整備が話題になっているが、市民の意向、民間企業の考え、民間資金をどれだけ使えるか、よく議論し、よりよい方向を探りたい。

### 3 京都府京都市 京都市（人口：約131万）

#### 京都市中央市場新水産棟

##### ① 社会実験に取り組んだ経緯

令和5年3月：完成（総工費 約170億円）

##### ② 環境配慮型設備の導入状況

- ・マイクロコージェネレーションシステム  
ガスエンジン（35kw×6台）中圧のガス管（非常時でも使用可能）  
廃熱を冷房や給湯にも利用
- ・井水の活用  
3か所の井戸を掘り、水道水と混ぜて使用（水産市場で使用する水量が膨大）

##### ③ 災害時の業務継続計画

- ・BCP計画は平成29年度に着手 → R2に感染症対策  
訓練を随時実施 → 防犯防災対策委員会を立ち上げ、パトロール等を行う

#### 所感：

京都市の市場の大きさに圧倒された。水産棟の横では、青果棟の新設も進んでおり、これが完成すると更に見ごたえのある施設になるものと思われた。

今回の視察の重点項目である災害に強い施設については、停電等に対応できる太陽光発電やガス発電施設の設置と効率的な運用に注力されているようだった。また、水産市場の水の使用量の低減、災害時に職員がどう動くのか、BCP計画の整備等、詳細な計画行動が作られ、災害対応についてはかなり努力されている様子が伺えた。

唐津市にある市場と規模的には大きな差があるが、災害時に「食」をどのように確保するのか、考えさせられた。

また、市場に隣接しているホテルから市場まで連絡通路が整備されていて今後、市場が京都における観光資源になることを目指していることに興味をそそられた。

# 政務調査報告書 (2025年11/4~11/6)

## 9番新生会 大河内正弘

### 1和歌山県和歌山市 和歌山城ホールについて

#### 概要

- 正式名称: 和歌山城ホール
- 所在地: 和歌山市七番丁25番地の1
- 規模: 地上5階建て(鉄骨鉄筋コンクリート造)、延べ床面積約1万4000平方メートル
- 主な施設: 大ホール: 954席規模の多機能ホール。音響性能が高く、演劇・音楽など多様な用途に対応可能。小ホール: 395席規模のホール。その他、展示室、会議室なども備える。
- 目的: 地域の文化芸術の振興及び市内外の交流によるにぎわいの創出。
- 特徴: 座席や緞帳に和歌山の名所や名産がデザインされており、地域色が盛り込まれている。

#### 課題

市民アンケートでは、和歌山市の文化施設に対する満足度は約3割に留まっており、全体的な満足度が低い傾向にある。

「身近に利用できる施設がない」「施設の数が少ない」という不満が多い理由として、既存施設の特色や情報が十分に認知されていない可能性が考えられる。

和歌山城ホールの開館を機に、他の既存施設(市民会館、県民文化会館など)とそれぞれの特色を活かした魅力ある事業展開や機能の連携・強化が求められる。

#### 所感

和歌山城ホールは新しい施設であるため、今後はこれらの課題に対応し、地域文化の拠点として運営していくことになると思います。

運営方法など参考にし、唐津市が今後見直さなければいけない点も認識できたと思います。

## ②奈良県桜井市 桜井駅南地区まちなかウォーカーブル推進事業について

### 事業の概要

目的: 車中心の空間から人間中心の空間へと転換し、人々が憩い、多様な活動を繰り広げられる魅力的な都市空間を創出する。

対象区域: 市町村が都市再生特別措置法に基づき設定する「滞在快適性等向上区域」(通称: まちなかウォーカーブル区域) や、立地適正化計画の区域内などが対象となる。

### 取り組み内容

この事業では、ハード・ソフト両面の取り組みが、社会資本整備総合交付金や補助金などの支援を活用して重点的・一体的に行われる。

#### 公共空間の再構築:

車道空間の一部を歩道として拡幅したり、広場や公園を一体的に整備する。

オープンカフェなどの設置を可能とする「歩行者利便増進道路(ほこみち)制度」の活用。沿道民間施設(店舗等)の低層部をガラス張り化(オープン化)し、街路空間と一体的な空間を創出する。

民間ビルの空きスペースや低層階を、誰もが自由に交流・滞在できる「市民に開かれた公共空間」として活用する。

エリアマネジメント団体などと連携し、空間の活用や将来ビジョンの策定を進める。

多様な機能の導入: 職住遊が融合した多様な機能を有する空間整備を推進し、多様な働き方・暮らし方に対応する。

### 所感

事業の計画段階や見直しを行う際、地域住民や関係者(商店街、交通事業者など)との間で合意を形成することが大きな課題。またインフラ整備や空間の再構築には多額の費用がかかる。財政難の中で、いかに効率的に事業を進め、費用対効果を高めるかが問われる。

全国の地方都市が直面している人口減少や高齢化は、地域経済の弱体化やコミュニティの希薄化を招き、事業の効果を薄める要因と考えられるので慎重な議論が必要だと思う。

1 和歌山県和歌山市

（和歌山城ホールについて）

人口35万422人

① 和歌山城ホールの建設経緯

別の場所にあった「和歌山市民会館」が老朽化し、移転新築された。

周辺には、和歌山城や和歌山市役所、和歌山中央郵便局など、市の施設が集積。

- ・2019年7月 建設工事開始
- ・2021年10月 和歌山城ホール完成
- ・総工費 約106億円

② 管理運営の概要

指定管理者制度（最初の2年は文化スポーツ財団：前身の施設の管理を引き継いだ）

今は、民間の「株式会社ケイミックスパブリックビジネス」で公募により決定

③ 収支等（令和6年度）

収入：2億3,211万円 支出：2億2,073万円 1,138万円の黒字

※指定管理料収入：1億4,283万円

④ 大ホール954席に不便は感じていないか？

年間の稼働率は60%を超えている。くじ引きをする位申し込みはある

不便は感じていないとの回答

音楽や演劇がメイン

所感

唐津市市民会館（仮称）は、オープンには市直営で管理との方針であるが、和歌山市の担当者は市の直営は難しいとのこと。

和歌山市でも、最初は市の外郭団体である「文化スポーツ財団」からノウハウを持った民間の事業者へ指定管理が変わっている。

興行を誘致する際に市が直営で管理運営しても、結局はノウハウを持った事業者に委託するしかない。

## 2 奈良県桜井市

(桜井駅南地区まちなかウォークアブル推進事業について)

人口5万4,034人(2025年5月1日)

### ① 本社会実験に取り組んだ経緯

平成28年：奈良県と桜井市はまちづくりに関する包括協定を結ぶ

桜井市まちづくり株式会社設立→市が都市再生推進法人に指定

平成30年：「桜井市南口広場整備事業」を特定事業計画に位置づけ

令和2年：国交省のまちなかウォークアブル推進事業

広場整備を目指した社会実験にも使えるので活用

### ② 社会実験の内容と結果

令和3年度～令和6年度に実施

- ・歩行者区間に人工芝を敷き、テーブルやベンチを置き滞在状況を調査
- ・移動式の屋台を設置し、飲食物等の販売
- ・駅前ロータリーの路上駐車などの調査、どのような飲食店が求められているか調査

令和7年度～8年度「桜井市南口広場再整備基本計画」を目指す姿

### ③ 今後の活用に向けて「桜井駅南口広場再整備基本計画」

令和7年度9月～：委託業者選定をプロポーザル

庁内、まちづくり会社、地元商店主、金融機関、交通事業者も入れた会議組織

## 所感

この駅前広場の再整備計画、事業費も高額となり、市のみでは実施が難しい。

現地を見ると、本市と同じで空き店舗が多い。この桜井駅にはJRと私鉄(近鉄)が乗り入れているので、駅を利用されている方は唐津駅より多いと推定される。

また、ウォークアブル推進の対象者は観光客(伊勢街道、橿原、明日香を目指す方)と市民との考え方である。

### 3 京都府京都市

(京都市中央市場新水産棟について)

人口131万2,559人

#### ① 京都市中央市場新水産棟

令和5年3月：完成（総工費約170億円）

#### ② 環境配慮型設備の導入状況

・マイクロコージェネレーションシステム

ガスエンジン（35kwを6台）中圧のガス管（非常時も使用可能）

廃熱を冷房や給湯にも利用している

・井水の活用

3箇所の井戸を掘り、水道水と混ぜて使用（水産市場であり、水の使用量が膨大）

#### ③ 災害時の業務継続計画

・BCP計画は平成29年度の着手→R2に感染症対策

訓練を随時実施→防犯防災対策委員会を立ち上げ、パトロールなどを行う

#### 所感

京都市の台所をまかなう市場の大きさに圧倒された。

今回の視察の重点項目である災害に強い施設では、停電等に対応できる太陽光やガス発電施設の設置と、効率的な運用。

また、水産市場の水の使用量の低減、災害時に職員がどう動くのか、BCP計画の整備など非常に参考となった。

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和8年2月10日

会派名 新生会  
代表者 伊藤 泰彦 様

出張者 伊藤 泰彦、檜崎三千夫  
江里 孝男、吉村慎一郎  
山下 壽次、岡部 高広  
古賀 博文、大河内正弘  
高倉 寛和、野田 宗作

次のとおり、政務活動(調査研究)のため出張したので、その概要を報告します。

1 出張先

2月3日(火) 佐賀県太良町

2月4日(水) 長崎県長崎市、長崎県大村市

2 出張日時

令和8年2月3日(火)～令和8年2月4日(水)

3 政務活動事項

2月3日 佐賀県太良町：多良岳200年の森について

2月4日 長崎県長崎市：長崎スタジアムシティプロジェクトについて

長崎県大村市：ミライ on 図書館について

4 政務活動結果 別紙のとおり

5 費用 342,100円

行政視察報告書  
(2026年2月3日～2月4日)

新生会 伊藤泰彦

1佐賀県太良町

多良岳200年の森について

○概要

太良町町有林の一部を樹齢200年を超えるスギ・ヒノキの森林を目指して「多良岳200年の森」事業を平成26年10月に太良町森林組合が管理者となり、設立(事業主体太良町)事業を開始している。

現在は、樹齢約50年の木の長期的な間伐を繰り返し、最終的には1ha当たりの本数を100本、樹高40m、直径1mの大径材にする構想だ。

・位置 多良岳の東側(役場から30分)

・面積 ヒノキ団地(41.30ha) スギ団地(9.8ha)

○所感

長伐期大径材を生産し、木材の価値を高め(樹齢が永く、幅が太い木材)神社・仏閣等に使用できる高価格林を育む。

また水源涵養(水源涵養養分)や山の機能を守り災害を減らす(水を育み、蓄える機能)や動植物の生態系を守ることも重要視している。

県内でも有数な林業地である多良岳山系であり町有林なのでこれだけの事業が出来るのであり、公有林が少ない本市に取り入れるのは難しい所ではある。また結果や効果を実感するまでの時や継続性にどうしても不安を感じる。

しかしながら町の財産を守っていく気概を、現地で森林組合の担当者に説明を受け強く感じた。

また太良町の児童生徒等の森林体験の場として活用されていることは林業へ興味を持たせ次世代への継承も視野に入れ活動されていることに感心した。

2長崎県長崎市

長崎スタジアムシティプロジェクトについて

○概要

長崎スタジアムシティはジャパネットグループが運営する、サッカースタジアム・アリーナ・ホテル・商業施設・オフィスからなる大型複合施設であり、その敷地面積は約75,000m<sup>2</sup>である。

・スタジアム 約20,000席(6階建て)

・アリーナ 約6,000席(6階建て)

- ・ホテル 242 室(14階建て)
- ・オフィス 約 13,000m<sup>2</sup>(12階建て)
- ・商業施設 約20,000m<sup>2</sup>( 7階建て)
- ・駐車場 約 1,150 台(立体駐車場約 900 台+平面 250 台)( 6 階建て)

#### ○所感

長崎スタジアムシティの開業により新たな雇用の創出、交流人口の拡大や市民の新たな楽しみの創出がなされ、民間主体の地域創成モデルとなっている。

このスタジアムは経済産業省やスポーツ庁から「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアムアリーナ」として選定されており、市では長崎スタジアムシティと連携し、まちの賑わいなどに繋げる事業に取り組んでいる。

JR 長崎駅から徒歩 10 分、JR 浦上駅から徒歩 8 分と中心市街地に位置し好アクセスであることも集客には好条件だ。

民間及び県市で整備も協力した最新事例として本市でも今後民間での開発がある場合には参考にしたい。

### 3長崎県大村市

みらい on 図書館について

#### ○概要

長崎県立長崎図書館と大村市立図書館が一体となった、4階建ての全国的に珍しい県市一体型の図書館である。また大村市歴史資料館も併設している。

1階 多目的ホール150席 こどもしつ101席

2階 研修室78席 学習スペース104室 グループ学習室24席

3階 資料閲覧室231席 対面朗読室2席

4階 資料閲覧室116席

駐車場205台(図書館利用者無料) 駐輪場100台

#### ○所感

名称の由来は「未来」へのスイッチを「オン」にするという意味が込められている。

県立、市立の区別なく本が配置され、段状のフロアが連続する開放的な空間である。また天井及び書架には対馬産の杉を全面的に使用した温かみのある空間でもある。共同運営のメリットとして費用の抑制がある。運営経費は年度ごとに県と市で負担し、建設費に関しては大規模な図書館建設は市単独では困難なため建設工事費約76億円のうち約48億円を長崎県が負担している。本来、県と県庁所在地での公共施設の建設は眼にするところだが、非常にまれなケースである。県と市の職員で運営に当たっているのが職員の一体感の維持・醸成が課題のようだ。

行政視察報告書 新生会 檜崎 三千夫

日時 令和8年2月3日

行先 佐賀県藤津郡太良町

目的 自然共生サイトについて

所感

令和5年から開始された環境庁の「民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域」との指定を受けた太良町の「多良岳200年の森づくり事業活動計画」が施行後初の認定を受けた。(計 201個所) 佐賀県では他に5個所の登録があるようだ。

多良岳の200年の森は、標高400～500mに位置しスギ・ヒノキの人工林が51,1haに広がっている。普通の植林は50～60年で伐採し木材として利用している。この多良岳は、200年を目指しお寺・神社・仏閣などに利用される木材を目指してある。

壮大な計画で、何代にも渡り管理しなければならず問題も多くあると思うが、それを実行されていることは素晴らしい事業である。

日時 令和8年2月3日

行先 長崎県長崎市

目的 民間が建設した長崎スタジアムシティについて

所感

長崎に大きなサッカー場が出来たという事で研修視察を行った。まず民間主導でこの大きな施設を建設したことに驚いた。

通信販売で有名な、ジャパネットホールディングスが民設・民営で地所まで管理してある。スタジアムももちろんだが、隣接してホテル・オフィス・商業施設・駐車場まである。総事業費約1,000億であり、年間来場者485万人、経済効果約963億円であり大きな成果を上げている。

視察の日時は平日であり、人はまばらであったが商業施設とホテルの視察は行っていないので、実情は把握していないかもしれないことを、付け加えておきたい。

日時 令和8年2月4日

行先 長崎県大村市

目的 ミライON図書館について

所感

大村市はポート関係で唐津市とは縁が深いそうである。図書館については、県立図書館と市立図書館の機能が統合された、公立図書館で多世代の交流や学びを支援する複合施設である。利用状況での来館者や貸し出し冊数を桁が違う。(数は資料に依りたい)

構造であるが、図書館ゾーンと多目的ホールや研修室、スタジオなどの交流・学習スペースがあり、カフェまであった。

大村市は全国的に人口減少が問題になっている中で、人口が増えているそうである。この図書館を見た限りでは、複合施設の役割が大きく貢献している気がした。

2月3日 太良町 多良岳200年の森について

2月3日 長崎市 長崎スタジアムシティ周辺道路整備について

2月4日 大村市 ミライ on 図書館について

### 太良町岳200年の森

太良町の町有林の一部で樹齢200年を超えるスギ・ヒノキの森林を目指して「多良岳200年の森」事業を始められている。



現在、樹齢約50年の木を長期的に間伐を繰り返し、最終的には1haあたりの本数が100本で、樹高が40m、直径が1mの大径材を目指されている。

これまで行われてこなかった長期的な取り組みの中で、技術やノウハウを蓄積し、施業技術の習得のための演習林としての活用と、森林の持つ水源かん養機能、生物多様性維持機能等の公益的機能を発現させるとともに、間伐の際に搬出された、優良な大径材を定期的に出荷し、木材の良さを広く周知する経済林としても活用していくとのことであった。

#### 【所 見】

200年の森については、町有林だからできる部分が多い。個人所有を実施できるのかといえば、植林してから4世代先に伐採することとなり収入面で困難。太良町では、人口減少や少子高齢化、林業従事者の減少などが課題となっている。

多良岳200年の森をすることにより、担い手の確保や育成、基金事業の活用や子どもたちへの林業体験等多く実施し後継者の育成を図るべきと思う。

## 長崎スタジアムシティ周辺整備について

### 整備の背景と目的

長崎駅周辺では、九州新幹線西九州ルート建設、JR長崎本線連続立体交差事業、長崎駅周辺土地区画整理事業など、複数の大規模プロジェクトが連携して進められている。

これらの事業と連動して、長崎スタジアムシティやその周辺地域において、交通の利便性向上と安全な歩行空間の確保が図られている。

### 具体的な道路整備

長崎駅東通り線・長崎駅西通り線・長崎駅中央通り線・市道茂里町3号線・長崎駅東西線

### 歩行空間の確保

長崎スタジアムシティや周辺のまちづくりに合わせて、快適で安全な歩行空間の確保も重視。

### 【 所 見 】

民間において、サッカー場・商業施設・ホテルが一体となった、施設を建設されたことは、うらやましい限りである。

この施設を生かすためには周辺道路の整備は必要である。

## ミライ on 図書館について

ミライ on 図書館は、長崎県大村市にある複合施設で、長崎県立長崎図書館と大村市立図書館が一体となった施設である。



県立と市立が共同で運営する図書館としては、全国で2例目、県庁所在地以外の市町村と県が共同運営する初めての例となる。

「ミライ on」という愛称は、「(Omura) と (Nagasaki) を融合した未来」を意味しています。2019年10月5日に開館した。

### 施設の特徴

延床面積は約13,300平方メートルで、開館時点の蔵書数は約125万冊。

収蔵能力は約202万冊と、九州の都道府県立図書館の中で最多を誇る。

図書館機能だけでなく、大村市歴史資料館も併設されている。

建物のデザインは造船所のドックをイメージしており、ひな壇状の閲覧空間「ブックカダン」と呼ばれるユニークな空間が広がっている。

### 開館時間と利用について

平日：10:00～20:00 土・日・祝日：10:00～18:00

### 【 所 見 】

大村市の人口では、本を借りる人の数がどこまで伸びるかが課題と思う。

イベントなど多く実施されているが、より多くの人に利用してもらうために商店街や住民を巻き込んだイベントが必要と感じた。

県産材の使用については、板材が多く使用されていたが、乾燥や数量確保など問題があるが柱材などの使用も欲しかった。

## 政務活動報告書

新生会 吉村慎一郎

### 1. 視察日

令和8年2月3日(火)～2月4日(水) 1泊2日

### 2. 視察概要・・・1

#### (1) 2月3日午前10時～12時

視察項目：多良岳200年の森について

視察先：佐賀県藤津郡太良町（太良町役場・200年の森現地）

面積：574.2 km<sup>2</sup>

人口：7,238人

#### (2) 内容

多良岳200年の森について

##### ①概要

- ・設立：平成26年10月・面積：ヒノキ団地(41.30ha)、スギ団地9.8ha)
- ・事業主体：太良町・管理者：太良町森林組合
- ・200年先を見据えた長伐期大径木生産を計画している。

##### ②200年の森活動内容

町内小学生の植樹活動として、小学5年生を対象に平成28年度からこれまで510名の参加があった。令和5年度からは広域連携SDGs事業予算で実施。

##### ③視察研修の受け入れ

県内外からの研修や研修先として、令和6年度までに1920名を受け入れている。対応については、太良町森林組合が行っている。研修内容については、付加価値の高い優良大径材(特殊材)を目指し、間伐材であっても出荷しながら木材の良さを広く周知する経済林や、森林の持つ公益的機能を最大限に発揮できる適正な森林構造につき、その施業管理の方法等について研修を行っている。

##### ④適切な森林管理

森林組合の施業方針として、環境負荷が低い「架線ケ系施業」を主体としており、重機が入らないため下層植生への影響や、近年増加している豪雨による尾根の崩壊リスクも低く、長期的に管理していくために適している施業を行っている。

##### ⑤多良岳200年の森が指すもの

神社仏閣に利用できるような優良な大径材を算出する。「ふるさと文化財の森」に認定され、文化財建造物の保存のため使用される木材を目指す。

##### ⑥現地調査

太良町役場から車で30分の所にある多良岳の標高500mの東側に位置するヒ

ノキ団地41.30ha、スギ団地9.8haの現地を見学した。

通常の人工林は、40年～50年で伐採、集荷されるが、この計画では檜や杉を200年育て集荷するといった壮大な計画で進められている。

#### ⑥所感

太良町と唐津市の施業方針の違いを理解することができた。・太良町は環境負荷が低い「架線系施業」を主体として行われていること。・下層植生（スギやヒノキの下層に広葉樹の植栽）が行われている。・本市については、森林に道路を造り豪雨による尾根の崩壊リスクを高めている。・下層植生の実施なし等である。多良岳200年の森では、適切な枝打ち、間伐により林内の光環境を保つことにより、低木層に広葉樹がある複層林を形成し、より災害に強く水源涵養機能の高い森林の形成を目指されている。

### 3. 視察概要・・・2

#### (1) 2月3日午後3時30分～午後4時30分

視察項目：長崎スタジアムシティとの連携について

視察先：長崎県 長崎市役所

面積：405.9k㎡

人口：382,397人

#### ①内容

長崎スタジアムシティとの連携について

#### ②概要

・事業主：(株) ジャパネットホールディングス・敷地面積：7.5ha・総事業費：1,000億円・延床面積：190,000㎡・工事期間：令和4年7月着工～令和年10月14日開業。

長崎市は、ジャパネットグループが運営する「長崎スタジアムイティ」と連携し、地域活性化、養育、観光、公共交通の課題解決に取り組んでいる。スタジアム・アリーナ・商業施設を活用し、都市の魅力や雇用創出、周辺エリア回遊性向上を目指す官民連携プロジェクト（長崎創生）を推進している。

#### ③経済波及効果等の状況

開業1周年（令和7年10月14日時点）で485万人。このプロジェクトが生み出す効果は、建設時の経済波及効果は、1,436億円、開業後の経済波及効果は、963億円である。雇用についてスタジアムシティ全体で、2,000人以上の雇用創出。商業テナント数：75店舗。オフィス入居状況は満床である。

#### ④連携内容（ハード事業）市の支援について

・用途地域の変更（工業地域から商業地域への見直し）実施した他、優良建築物等整備事業、鉄道高架下横断箇所及び歩道の整備、Vロードの環境整備、

税の減免（固定資産税、都市計画税）

⑤市の支援について（幸町地区優良建築物等整備事業）

補助対象施設：人工地盤（通路）商業オフィスの共用スペース、附置義務駐車場の一部、広場等。

補助対象額：約63億円（国1/3、地方1/3、事業者1/3）

補助金額：約42億円（国：約21億円、県：約8億円、市：約13億円）

⑥連携内容（ソフト事業）市の支援について

長崎スタジアムシティ連携わくわく・賑わい創出プロジェクトは、開業により新たな雇用の創出、交流人口の拡大や市民の新たな楽しみの創出といったことが期待される民間主体の地域創生モデルである。長崎スタジアムシティは、経済産業省及びスポーツ庁から「多様な世代が集う交流拠点としての「スタジアム・アリーナ」として選定されている。（例）スタジアムシティ内での特産品や観光地といった長崎の魅力発信に係る広告等。（例）高校生スポーツ大会をプロ仕様のスタジアムやアリーナで開催するための支援等。（例）子供体験創出事業等の実施。

⑦所感

長崎スタジアムシティの建設は、地域活性化と地方の課題解決を目的とした民間主導の大型プロジェクトである。具体的には、長崎県が抱える若者の転出超過や地方の衰退に歯止めをかけることである。

「転出超過」という課題に対し、若者の雇用の受け皿となる魅力的な職場の創出を目指すことに取組まれている。また、中学生を対象とした職場体験プロ選手・コーチによるスポーツ体験教室を通じて、デジタル人材の育成や郷土愛の醸成を図ろうとしている。本市においても、若者の転出超過と地域の疲弊は深刻さを増すばかりである。長崎スタジアムシティのような莫大な投資が出来る企業は現在のところ見あたらないが、今回の視察で得たものを小さなことから取組んでいきたい。

4. 視察概要・・・3

(1) 2月4日午前10時30分～午後12時

視察項目：「ミライ on 図書館」について

視察先：長崎県 大村市 大村図書館内

面積：126.5 k m<sup>2</sup>

人口：99,521人

①概要

建築構造：鉄骨造6階建、高さ22.8m、敷地面積：16217.81m<sup>2</sup>、建築面積4873.95m<sup>2</sup>、延べ床面積：11726.14m<sup>2</sup>。

収蔵能力：202万冊 九州最大規模（開架30万冊、閉架172万冊）

駐車場：205台、駐車料：無料、駐輪場：100台。

1階多目的ホール：150席、こども室：10席。2階研修室：78席、学習スペース104席、グループ学習室：24席。3階資料閲覧席：231席、対面朗読室：2室。4階資料閲覧室116席。

館外から見た「ひとつ屋根」三日月型、湾型の形状は、大村湾や大村の扇状地形をイメージしたもの。自然採光と電気による人工照明を併用、読書に必要な管内の明るさを保てるよう、建物西南側の壁面は、ガラス張り一面となっている。夜間は管内からの照明が、芝生広場や通行帯を照らすことで、安全に通行できる。

#### ②費用負担割合（県と市で面積案分）

建設工事費は約76億円（長崎県約48億円、大村市約28億円）である。

（※28億円の内訳：市立図書館約20億円、歴史資料館約8億円となっている。）

#### ③職員の配置状況

常勤職員：県立20人、市立11人、合計31人・会計年度任用職員70人である。

#### ④図書資料等の充実

平成30年度末の20万冊から、令和6年度末139万冊と蔵書冊数の増加は図られた。蔵書収納は15万冊から202万冊と収蔵能力の強化が図られた。新聞は7種類から62種類へ、雑誌は72種類から536種類へと充実した。

#### ⑤読書・学習環境の充実

延べ床面積が旧施設の10倍となったことにより、500席を超える閲覧席が充実した。

#### ⑥新しいサービスの提供

課題解決支援、視覚障害者向け、遠隔地返却、オンラインサービスの提供ができるようになった。また、SNSの活用もできる。

#### ⑦共同経営における課題

職員一体感の維持・醸成（在職年数（異動）県<市）、図書館運営を担う人材の育成（司書職員の数 県<市）、図書館のICT化、DXの推進（図書のデジタル化、財源他）等が挙げられる。

#### ⑧所感

ミライオン図書館は、木の温かみと開放感あふれる空間が特徴の県立と市立が一体となった九州最大級の所蔵（202万冊）を誇る図書館である。また、カフェや子供向けの広々としたスペースも充実しており、一日中快適に過ごせる場所であると感じた。席の数も充実しており、ゆっくりと読書や学習に集中できる。天井や本棚に使用されているのは、対馬産の木材である。驚いたのは利用登録をすれば、読みたい本を県内各地の希望の図書館で受取、返却できるサービスが実施されていることだった。この取り組みは、本市でもぜひ取り組むべき事項だと感じた。

# 行政視察報告書

新生会

山下 寿次

日時 令和8年2月3日

場所 佐賀県太良町

目的 多良岳200年の森について

## ○多良岳200年の森（趣旨）

我が国の森林の約73%は杉・ヒノキ等の人工林。林齢40年生以上の割合が75%を超え、木材資源だけでなく、水を育み災害から住民を守る公益的な役目を担っている。我が国の林業は抜気齢を40～50年に定めて森林資源の循環利用を目標としてきたが、下刈・枝打・間伐等の保育作業のサイクルが木材価格の低迷、作業従事者の高齢化・減少などにより保育作業が困難となってきた。また、木材価格の低迷により主伐が進まず高齢級に移行しているにもかかわらず、高齢級森林の管理技術は確立されていない。このため、100年を超えるような人工林業地帯は数少ない。さらに、200年を超える森林は名所や神社仏閣内に確認される程度。こうした背景のもと「多良岳200年の森」を立ち上げ、長伐期大径材生産と森林の持つ防災機能、水源涵養、生物多様性の確保など様々な公益機能を併せ持つ森林づくりが目的。

## ○多良岳200年の森の事業主体及び管理者

事業主体：太良町

管理者：太良町森林組合

## ○多良岳200年の森の活用

- ・多良岳山系森林のPR拠点
- ・研修や児童生徒の森林体験の場
- ・施業技術取得のための演習林
- ・各種公益機能の発現を展示する場
- ・優良大径材を定期的に出荷する経済林

## ○所感

林業が抱える課題、

- ・再生産を阻む木材価格の低迷

・保育作業に従事する担い手の不足・高齢化

などの各種課題を、森林組合を行政が支援することで100年後を見据えて計画がなされている。建築様式の多様化、外材の大幅な輸入超過など国産材の活用が減少傾向など、経済的再生循環が困難な状況。水を育み災害から住民を守る森林が持つ公益的機能に着眼し、地域の誇りとして多良岳山系の森林を後世に伝える壮大な社会実験。唐津にも厳木町・七山地区など林業が盛んな地域はあるが経済的に成り立っておらず、森林組合が地域森林の担い手となっている状況。森林譲与税などを活用し、森の持つ公益機能を重視し、さらに、経済林として持続区できる施策の展開が必要とは十分認識できたが、予算・担い手の確保・再生産可能な経済性の確保など非常に厳しい現実あることを認識した次第である。

日時 令和8年2月3日

場所 長崎県長崎市

目的 長崎スタジアムシティプロジェクトについて

○事業概要

- ・事業主：(株) ジャパネットホールディングス
- ・総事業費：約 1,000 億円
- ・工事期間：令和 4 年度～6 年度 (R6 年 10 月開業)
- ・主な用途：スタジアム (約 20,000 席)  
アリーナ (約 6,000 席)  
ホテル 242 室  
オフィス 約 13,000 m<sup>2</sup>  
商業 約 20,000 m<sup>2</sup> 駐車場 約 1,150 台

○主な経緯

- ・H27 年 7 月 三菱重工が幸町工場機能廃止を発表。「スマートサステナブルなまちづくりを先導する拠点」をコンセプトに跡地活用事業者を公募
- ・H30 年 4 月 (株) ジャパネットホールディングスが優先交渉権者に決定。基本協定書の締結
- ・H30 年 10 月不動産売買契約 (三菱重工 (株) ジャパネットホールディングス)

- ・令和2年 基本設計
- ・令和3年 実施設計
- ・令和4年7月 着工 令和6年10月 開業

#### 国の認定関係

- ・民間都市再生事業計画（令和3年3月 国土交通省）
- ・多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ（令和3年6月  
スポーツ庁 経済産業省）
- ・幸町地区優良建築物等整備事業（令和4年12月 国土交通省）

#### ○経済波及効果

- ・年間来場者数 約485万人（令和7年10月）
- ・建設時の経済波及効果 約1,463億円
- ・開業後の経済波及効果 約963億円
- ・2,000人以上の雇用を創出（ジャパネット+スタジアム）
- ・商業テナント数 75店舗 オフィス入居 満床

#### ○市との連携

- ・優良建築物等整備事業（通路・共用施設、広場など）
- ・歩道等の整備
- ・Vロードの環境整備
- ・気運醸成事業
- ・大型誘致補助金（令和7年度で終了）
- ・税の減免
- ・交通渋滞対策

#### ○所感

スケールの大きさ、民間主導の施設整備・運営など私有地の活用が地域まちづくりと経済が両立している。跡地の利用コンセプトに長崎市の考えが織り込まれ、計画され、施工・運営されている。将来を見据えた事業建設運営が民間事業者の視点と市の方向性が十分に共有されている。唐津においてもアルピノ跡地は市内中心地にある市有地。活用が大きな課題。民間事業者主体による建設運営が市のまちづくりの方向性と一つとなる未来を見据えた計画と経済的効果、十分な運営能力・計画が担保された事業者の選択が重要と感じた次第である。中心市街地活性化に効果的な事業の構築が重要と強く考える。

日時 令和8年2月4日

場所 長崎県大村市

目的 ミライ ON 図書館について

○施設の概要

名称：ミライ ON 図書館（長崎県立長崎図書館・大村市立図書館）

建築構造：鉄骨造6階建

敷津面積：16,217 m<sup>2</sup>

建築面積：4,873 m<sup>2</sup>

延床面積：11,726 m<sup>2</sup>

収蔵能力：202万冊

駐車場：205台

施設内容：1F 多目的ホール 150席 こどもしつ 101席

2F 研修室 78席 学習スペース 104席 グループ学習室 24席

3F 資料閲覧室 231席 対面朗読室 2室

4F 資料閲覧室 116席

建設費：長崎県 48億円 大村市 28億円

職員の配置状況

長崎県 常勤20人 会計年度任用職員9人

大村市 常勤11人 会計年度任用職員30人

○共同建設・運営のメリット

費用の抑制（建設費、運営経費）

図書資料等の充実

読書・学習環境の充実

新しいサービスの提供

既存サービスの充実

○共同運営における課題

職員一体感の維持・醸成

図書館運営を担う人材の育成

図書館のICT化、DXの推進

まちづくりへの貢献

## ○所感

県立図書館が県庁所在地外に設置されることは非常に珍しい。大村市に建設された理由は、県立図書館建て替えに伴うもの、大村市が県の中心地にある点、建設用地の提供、大村市の熱心な誘致などが決め手となったとのこと。それにより県及び市の建設費・運営費負担が抑制されている。また、開放感に溢れる空間設定がなされており、市民が気軽に利用できる雰囲気醸成されている。また、省エネ・照明等にも配慮されている人にやさしい空間となっている。唐津市においても各種公共施設の建設において学ぶべき施設形態の一つ、近未来に課題となる図書館建設・再編のモデルとすべき点多々あると感じた次第である。

## 政務調査報告書（2026年2月3日～2月4日）

21番 新生会 岡部 高広

### 1 佐賀県太良町 （多良岳200年の森について）

#### ① 内容

- ・設立は平成26年10月 ・面積はヒノキ団地:41.3ha、スギ団地:9.8ha
- ・事業主体は太良町 ・管理者は太良森林組合
- ・目標は200年先を見据えた長伐期大径材生産への取組み  
（神社仏閣に利用できるような優良な木材を産出したい）
- ・環境負荷が低い「架線系施業」を主体とし、豪雨時にも災害を軽減

#### 所感

現地では、樹齢50年から60年程度の立派なヒノキがあった。  
組合長さんが非常に熱心な方で、環境を大事にされているのを理解した。  
本市の「まつら森林組合」では、機械を入れての森林管理が主である。  
このような手法良いと思うが、生産性や経済性なども考えながら森林の管理に注視したい。

### 2 長崎県長崎市 （長崎スタジアムシティとの連携について）

#### 内容

ジャパネットホールディングスが建設された「長崎スタジアムシティ」と市の連携を学んだ。国の「民間都市再生事業計画」と「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」、「幸町地区優良建築物等整備事業」に認定、選定。  
市は、施設整備の一部を補助（通路や広場など）、鉄道高架下の歩道整備など。

#### 所感

サッカースタジアムとアリーナまた商業施設など、とても大きく、集客力のある施設である。市としても中心街の拠点となる施設を、民間事業者が整備され、その一部である歩道や通路を景観を保全しつつ、一体となる整備をされたのはとても興味深い。

### 3 長崎県大村市

(ミライ on 図書館について)

#### 内容

長崎県立長崎図書館と大村市立図書館が一緒になり、「ミライ on 図書館」が建設された。収蔵能力は202万冊で九州最大規模である。また、多目的ホールやこどもしつ、学習スペースなど、ゆっくり静かに利用できる空間が魅力である。

職員は70名。県と市の共同運営のメリットは、費用の抑制(建設費や運営経費)

#### 所感

非常に大きな図書館で、形状も「ひとつ屋根」の三日月形、特徴的であった。

蔵書の数も多く、表に展示されていない像書庫も見せていただき、機能的につくられていた。

子育てや高齢者の来館者も多く、図書館が気軽に行けるまた学べる場所であり、本市にも規模感は違えど、使いやすい館にしていきたいと感じた。

政務調査活動報告書（2026年02月03日～04日）

10番 新生会 古賀博文

- 1 多良岳200年の森
- 2 長崎スタジアムシティ
- 3 ミライ ON 図書館

02月03日（火）唐津市→太良町役場→多良岳200年の森（昼食）→長崎市役所  
（泊）

02月04日（水）長崎→ミライ ON 図書館（昼食）→唐津市

- 1 多良岳200年の森

上記の日程で移動し、10:00から太良町役場で多良岳200年の森について説明を受けた。200年の時間を要する事業計画を立てられ、ある面非常に夢のある事業で、後世の人に継承できる、残すことが出来る事業だと思った。

長年にわたって維持・管理が必要で、現在の計画が引き継がれ、150年後・200年後に大きな価値を生むか、疑問を感じる部分もあった。また、伐採し製材するまでは収益の見込みがなく、事業として成立するのか、もう少し検討を深める余地があるのではないかと率直に感じた。

しかし、太良町の特徴、自然環境を象徴する、他の自治体には真似できない、遺産になる可能性を有した事業で、今後の発展を見守りたい。

- 2 長崎スタジアムシティ

昼食後に長崎市に移動し、長崎市役所を訪問して長崎スタジアムシティについて説明を受けた。長崎スタジアムシティは、(株)ジャパネットホールディングスの事業で、総事業費約1,000億円を投じてスタジアム・アリーナ・ホテル・オフィス・商業施設・駐車場を有し、令和6年10月にオープンした施設。JR長崎駅から徒歩10分の距離にあり、経済波及効果、雇用が見込める場所に立地していた。

開業1年間の来場者数485万人、建設時の経済波及効果1,436億円、開業後の経済波及効果963億円、そして2,000人以上の雇用を創出する実績を上げていた。

長崎市は交通渋滞の緩和等、ハード・ソフト面で支援をしていて長崎市民・県民も期待し、訪れる施設になっているようだった。

また、事業を始める前に綿密な計画を立てられ、開業と同時に多くのイベント・行事を企画・誘致する態勢を整えている状況、それを支える人材の確保、全ての面で順調に進められているように感じた。

九州の西端にあって集客の面で不利な条件もあるが、今後の更なる展開を期待したい。

### 3 ミライ ON 図書館

次の日の午前、大村市にあるミライ ON 図書館を訪問した。大村市立図書館の老朽化と長崎市にあった長崎県立図書館の建て替えの時期が重なり、大村市に県立図書館を誘致し県立図書館と私立図書館が一体となった図書館を建設し、運営も大村市と長崎県が行う形態で事業が行われていて運営費の削減、職員の縮小が図られていた。

また、建物の外観、内部も流線形の設計が施され、木材も多く使用されている関係で暖かみ、人に優しい施設となっていた。

県立の公共施設の多くは県庁のある都市に立地するが、それを地方都市に誘致した大村市に唐津市も学び、取り入れる部分があるように感じた。

# 政務調査報告書(2026年2月3日、4日)

9番新生会 大河内正弘

## 1. 太良町:多良岳 200 年の森について

### 概要

- ・場所:佐賀県藤津郡太良町の中山間地域、主に東南斜面の山
- ・活動内容と趣旨: 太良町が 200 年後を見据え、公益的機能と経済性の両立を目指すプロジェクトである。平成 26 年から活動を開始。総面積は約 51ha。ヒノキ41ha、スギ10ha の構成。太良町が主体となり町の森林組合が管理作業を担っている。

### 将来的な指針

- ・長い期間をかけて計画的に間伐を行いながら、将来価値の高い大径の木材を出荷する。直径1m、樹高 40mを見込む。また自然環境の保全にも取り組み森林が持つ水源涵養機能の強化を目指す。地域のシンボルとしての効果も期待でき、森林施業技術の習得の場としても活用を見込んでいる。

### 評価

- ・ネイチャーポジティブ実現に向けた取り組みが認められ、環境省から生物多様性の保全に貢献している取り組みを評価する「自然共生サイト」に2024年に認定された。

### 所感

- ・現在、樹齢50年の木を200年かけて育てるという壮大な計画であり、地域のシンボルとしても耳目を集める事例だと思う。平成初期から木材価格が5分の1に下がったといわれる現在、将来に希望を託すこの取り組みは新しい林業の在り方を社会に提議しているといえる。里山は限界集落化し人材不足の中、いかに山林が災害防止のために必要かを社会に訴え続けていく必要があると感じた。

## 2. 長崎スタジアムシティプロジェクト周辺道路等整備について

### 概要

- ・場所:長崎県長崎市幸町
- ・整備内容と目的:JR 長崎駅から徒歩圏内に位置する長崎スタジアムシティの開業により周辺の道路整備を進め渋滞を緩和する。

### 状況

- ・一方通行化、左折導入路の設置等の車両動線計画、歩行者専用道路の整備や誘導員配置などの歩行者動線計画、駐車場対策。アプリを使った交通情報の提供など。

#### 所感

- ・このプロジェクトは地方都市や地域課題の解消に役立ち、経済的、社会的効果をもたらすことができるのではないかと思います。また、この周辺整備により来場者のスムーズなアクセスが可能になるほか、生活している地元住民への影響の緩和も期待できるのではないかと考えられる。

### 3. ミライ ON 図書館について

#### 概要

- ・場所とアクセス:長崎県大村市東本町。大村駅から徒歩数分のほか、長崎県営バス等もあり。また200台収容可能な駐車場も完備している。
- ・特徴:愛称は大村市のOと長崎県のNを融合した未来に由来。長崎県立図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館としての施設機能も兼ね備えている。収蔵能力は202万冊で九州の県立図書館で最多となる。また誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを採用し1階や野外広場は「賑わいの空間」、2階から4階は「静かな空間」を演出している。

#### 所感

- ・圧倒される蔵書の冊数をいかすための工夫が多方面で施されています。CD・DVDの貸し出し、対面朗読室、高さ調整可能な機の採用、各種講座など年齢、性別、能力、文化などにかかわらず誰もが利用できる施設を目指していることが実感できた。

# 政務調査報告書

氏名：高倉 寛和

## 1 視察日

令和8年2月3日（火）～2月4日（水）

## 2 視察先

- （1）太良町（佐賀県藤津郡）
- （2）長崎市
- （3）大村市

## 3 視察目的

- （1）多良岳200年の森について
- （2）長崎スタジアムシティプロジェクト周辺道路等整備について
- （3）ミライon図書館について

## 4 視察概要及び所感

### （1）佐賀県藤津郡太良町

（多良岳200年の森について）

#### ①概要

多良岳200年の森は平成26年10月に設立され、ヒノキ団地41.3ha、スギ団地9.8haの町有林において実施されている。事業主体は太良町であり、管理は太良町森林組合が担っている。将来的には対象面積の拡大も視野に入れている。

本事業は200年という長期的な視点に立ち、大径木の育成を目的とした長伐期施業を特徴としている。また、針葉樹と広葉樹が共存する複層林への移行を進めることで、森林の持つ多面的機能の発揮を目指している点が特徴的である。

町内の小学生を対象とした植樹活動を継続的に実施しており、森林資源の保全とともに環境教育の場としても活用されている。さらに、企業版ふるさと納税の活用やJクレジット事業への取組など、財源確保にも工夫が見られた。

## ②所感

森林整備を単なる資源管理にとどめず、長期的な視点で地域資産として育てていく取組は重要であると感じた。一方で、収益化までに長期間を要することから、持続的な事業運営のための財源確保が課題であると考ええる。

また、環境負荷を抑えた施業は評価できるが、コスト面とのバランスをどう図るかが今後の鍵になると感じた。防災の観点からも、適切な森林管理の重要性を再認識した。

## (2) 長崎県長崎市

(長崎スタジアムシティプロジェクト周辺道路等整備について)

### ①概要

長崎スタジアムシティは、ジャパネットホールディングスが主体となり整備した大型複合施設であり、令和6年に開業している。

長崎市は本事業に対し、用途地域の変更や歩道整備などのハード面の支援に加え、イベント誘致や回遊促進といったソフト面の支援も行っている。交通対策としては、公共交通機関の利用促進を中心に対策が講じられており、立地的にも長崎駅・浦上駅から徒歩圏内と利便性が高い。

### ②所感

民間主導の開発に対し、行政が適切に関与することで地域全体の活性化につなげている点が印象的であった。特に、交通対策と回遊促進を一体的に進めている点は参考になる。

また、施設が日常的に人を呼び込む空間となっている点は重要であり、単なるイベント施設にとどまらない価値を創出していると感じた。今後のまちづくりにおいては、こうした「日常的な賑わい」を生む視点が必要であると考ええる。

## (3) 長崎県大村市

(ミライon図書館について)

### ①概要

ミライon図書館は、長崎県と大村市が共同で整備・運営する図書館であり、県立図書館と市立図書館、歴史資料館の機能を併せ持つ施設である。

蔵書数は約139万冊、収蔵能力は約202万冊と九州最大規模を誇り、資料の充実が図られている。共同運営により建設費・運営費の抑制が可能となり、サービス面でも遠隔地返却など新たな取組が実現している。

一方で、県と市の職員が混在する運営体制においては、組織としての一体感の醸成が課題とされていた。

## ②所感

施設全体として非常に落ち着いた環境が整っており、市民の学習・交流拠点として高い機能を有していると感じた。共同運営によるコスト削減とサービス向上の両立は、今後の公共施設の在り方を考える上で有効な手法である。

一方で、組織運営面での課題も見受けられ、ハード整備だけでなくソフト面での工夫も重要であると認識した。広域連携による施設整備の可能性について、今後検討する価値があると考ええる。

# 政務調査報告書

氏名:野田 宗作

## 1 視察日

令和8年2月3日(火)～2月4日(水)

## 2 視察先

(1)太良町(佐賀県藤津郡)

(2)長崎市

(3)大村市

## 3 視察目的

(1)多良岳200年の森について

(2)長崎スタジアムシティプロジェクト周辺道路等整備について

(3)ミライon図書館について

## 4 視察概要及び所感

(1)佐賀県藤津郡太良町

(多良岳200年の森について)

### ①概要

「多良岳200年の森」は平成26年10月に設立された町有林事業であり、ヒノキ団地41.3ha、スギ団地9.8haの規模で実施されている。事業主体は太良町、管理は太良町森林組合が担っている。現在は町有林で実施しているが、将来的には面積拡大を目指している。

本事業は200年先を見据えた長伐期による大径木生産を計画しており、神社仏閣などに使用可能な優良材の産出を目標としている。また、複層の針広混交林へ移行することで、森林の公益的機能の発現を展示する場としての活用も目指している。下層に広葉樹を持つ複層林は全国的にも珍しい取組である。

平成28年度からは町内小学5年生を対象に植樹活動を実施し、次世代への森林教育にも取り組んでいる。令和元年には企業版ふるさと納税を活用してPR映像を制作した。さらに、令和5年度からは町有林Jクレジット創出・活用事業を実施し、令和6年度には自然共生サイトとして認定されている。

適切な森林管理により、太良町では比較的大規模な災害が少ないとの説明もあった。

### ②所感

災害に強い森林づくりは今後ますます重要になると感じた。一方で、長伐期施業は伐採までの期間が長期に及ぶため、その間の安定的な収益確保が課題であると考えた。

また、大型重機による作業で山肌を傷つけないよう配慮する施業は環境面で意義があるが、時間や費用の増加につながる可能性もある。森林の公益的機能、経済性、環境保全のバランスを総合的に考慮する必要があると感じた。

(2)長崎県長崎市

(長崎スタジアムシティプロジェクト周辺道路等整備について)

### ①概要

長崎スタジアムシティは、民間企業であるジャパネットホールディングスが令和6年に建設した大型複合施設である。

長崎市は本プロジェクトに対し、ハード・ソフト両面から支援を行っている。ハード面では用途地域の変更や国の制度を活用した整備費補助、歩道整備等を実施。ソフト面では気運醸成事業や大型イベント誘致補助、市内回遊促進策などを展開している。

交通渋滞対策としては、路面電車、バス、JRなど公共交通機関の利用促進を図っている。施設は長崎駅および浦上駅から徒歩約10分圏内に位置しており、公共交通アクセスに優れている。なお、大型コンサートの開催には1年半から2年前からの準備が必要とのことであった。

## ②所感

民間事業者の大規模投資を行政が適切に支援し、相乗効果を生み出している好例であると感じた。交通渋滞対策とあわせて市内周遊を促進する施策は、市内経済の活性化に寄与していると考ええる。

また、施設の企画運営は事業者グループ会社が担っており、大規模施設の継続的な運営には民間のノウハウが不可欠であると感じた。一般的なスタジアムはイベント開催時以外は人が少ない傾向にあるが、本施設では日常的に散策や飲食を楽しむ人の姿が見られ、人が集まりやすい空間づくりがなされている点が印象的であった。

## (3)長崎県大村市

(ミライon図書館について)

### ①概要

ミライon図書館は、長崎県立図書館と大村市立図書館、大村市歴史資料館が一体となった施設である。旧県立図書館と旧市立図書館が同時期に建設され、同時に建替時期を迎えたことから、県と市による共同運営が実現した。県と市が共同運営する図書館は全国で2例目である。館内には長崎県産木材が使用され、天井や書架には対馬産杉を139立方メートル活用している。

### 【共同運営のメリット】

- ・建設費および運営経費の抑制
- ・図書資料の充実(令和6年度末蔵書約139万冊、収蔵能力約202万冊で九州最大規模)
- ・遠隔地返却サービスなど新サービスの提供

### 【共同運営の課題】

- ・県職員の在職年数が比較的短く、職員間の一体感の維持・醸成
- ・施設や敷地の有効活用、地域イベントとの連携など「まちづくり」へのさらなる貢献

## ②所感

館内は開放的で、多くの利用者が落ち着いて読書や学習ができる環境が整っていると感じた。県と市が費用を分担することで財政負担を軽減し、より積極的な取組が可能となっている点は大きな利点である。

また、建築物として高い評価を受け、数多くの賞を受賞していることから、計画段階から県市が十分な準備と協議を重ねてきた成果であると感じた。今後の公共施設整備において、広域連携の可能性を検討する上で大いに参考となる事例であった。